

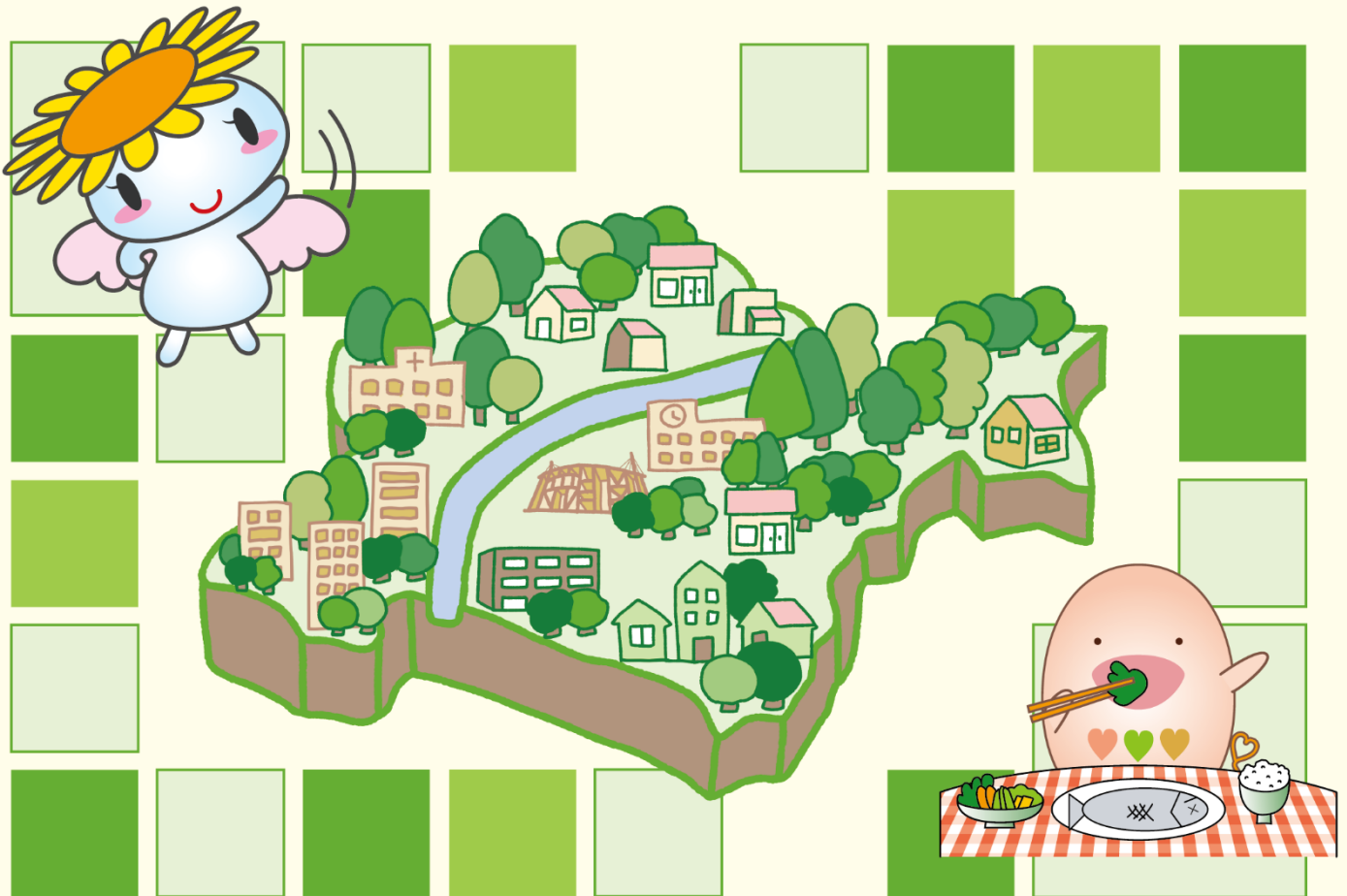


健康づくり豊田 21 計画

(第四次)

まちぐるみ心とからだの健康づくり
～元気な未来 ずっとキラキラ～

令和6年度～令和11年度



豊田市
令和6年3月

まちぐるみ 心とからだの健康づくり

～元気な未来 ずっとキラキラ～



生涯にわたり健康で自立した生活を送るためには、若い時から「自分の健康は、自分で守る」ことを意識し、主体的に健康づくりに取り組むことが重要です。

本市では、健康づくりの取組を推進していくため、このたび、「健康づくり豊田21計画（第四次）」を策定しました。これまで、健康増進計画、食育推進計画、自殺対策計画をそれぞれ策定し推進を図って参りましたが、3つの計画を一体的に策定し、他分野の計画とも整合・連携を図りながら、市民の健康増進等の推進に関連する施策を展開して参ります。

本計画の推進にあたっては、全ての市民が共に支え合いながら希望や生きがいを持ち、生涯にわたり健やかでこころ豊かに生活できる社会の実現を目指し、基本理念に「まちぐるみ 心とからだの健康づくり」を掲げました。

また、多様な働き方や社会参加が広がる中、健康づくりの取組を行うことによって、誰もがいつまでも自分らしく健やかに暮らし続けられるよう「元気な未来 ずっとキラキラ」というサブタイトルを追加したほか、市民一人ひとりが健康に関する取組を自ら進めていただけるよう、健康づくりの合言葉として「とよた健康プラス10（じゅう）」を設定しました。

身近な地域や仲間で支え合い、民間企業との連携やICTを活用しながら健康づくりを行い、地域全体の意識が醸成され、継続した取組に発展させることにより、本市の健康寿命の延伸を目指してまいります。

最後に、計画策定にあたり、豊田市地域保健審議会、健康づくり豊田21計画策定委員会の委員の皆様をはじめ多くの貴重なご意見をいただきました皆様に心から感謝申し上げますとともに、引き続き、市政に対するご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年3月

豊田市長 太田 稔彦



目次

第1章 計画策定の背景

1 国の動き	1
2 愛知県の動き	3

第2章 豊田市の現状

1 統計データから見る豊田市の現状	5
2 計画の評価から見る豊田市の現状	8
3 ヒアリング結果から見る豊田市の現状	12
4 計画策定のポイント	13

第3章 計画の基本的な考え方

1 計画の目的・位置づけ	14
2 計画の期間	15
3 基本理念・基本指標	16
4 計画のスローガン（健康づくりの合言葉）	17
5 基本目標	17
6 計画の体系図	18

第4章 重点取組

1 若者・働く世代等の健康づくりの推進	20
2 地域、ボランティア、民間事業者等による健康づくりの推進	22
3 新たなつながりの創出による健康づくりの推進	24
4 多様な支え合いによる生きることの包括的支援の推進	26
5 ICTを活用した健康づくりの推進	29

第5章 施策・事業の展開

1 個人で取り組む健康づくり	30
2 みんなで取り組む健康づくり	40

第6章 計画策定における資料

1 指標一覧	46
2 計画の推進体制	50
3 計画策定の経緯	50
4 用語説明	53





第1章 計画策定の背景

1 国の動き

(1) 健康づくり

平成12年から生活習慣病やその原因となる生活習慣の改善等に関する課題について目標等を選定し、国民が主体的に取り組める新たな国民健康づくり対策として「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」を開始しました。

平成14年には健康増進法が制定され、健康日本21は同法に基づく国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針として位置付けられました。

また、平成25年からは、健康日本21の最終評価において提起された課題等を踏まえ、「21世紀における第二次国民健康づくり運動（健康日本21（第二次）」を開始し、令和5年度までを計画期間として、取組を推進してきました。

こうした健康日本21（第二次）の評価の結果や、国民の健康を取り巻く現状・課題等を踏まえ、「健康日本21（第三次）」が令和6年度から開始予定です。



(2) 食育推進

平成17年6月に食育基本法を制定しています。これまで、日常生活の基盤である家庭における共食を原点とし、学校、保育所等が子供の食育を進め、都道府県、市町村、様々な関係機関・団体等、地域における多様な関係者が様々な形で食育を主体的に推進してきました。

しかしながら、食をめぐる環境は大きく変化してきており、様々な課題を抱えています。そのような状況を踏まえ、令和2年3月に「第4次食育推進基本計画」を新たに策定し、生涯を通じた心身の健康を支える食育、持続可能な食を支える食育の推進、「新たな日常」や社会のデジタル化に対応した食育の推進を重点事項とし、食育に関する施策を総合的かつ計画的に推進しています。



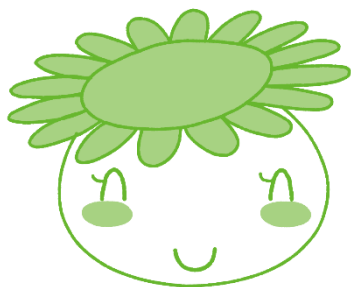
(3) 自殺対策

平成18年に成立した「自殺対策基本法」に基づき、政府が推進すべき自殺対策の指針として「自殺総合対策大綱」を策定しました。

全国の自殺者数は減少傾向にあり、これまでの取組に一定の成果があったと考えられます。

一方で、依然として自殺者は年間2万人を超える水準で推移しており、コロナ禍で女性は2年連続の増加、小中高生は過去最多の水準になるなど、今後対応すべき新たな課題も顕在化してきました。

このような状況を踏まえ、令和4年10月に閣議決定された新たな大綱では、「子ども・若者の自殺対策の更なる推進・強化」、「女性に対する支援の強化」、「地域自殺対策の取組強化」、「総合的な自殺対策の更なる推進・強化」を重点事項とし、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現に向けて、自殺対策を一層推進させる取組を行っています。



2 愛知県の動き

(1) 健康づくり

平成10年6月に「あいち健康づくりプラン～すべての県民に健康を～」を策定し、さらに、その基本的な考え方に基づいた行動計画として平成13年3月に「健康日本21あいち計画」を策定しました。

また、平成25年に、すべての県民が「生涯を通じて、健康でいきいきと過ごす」ことができるよう、行政や関係機関、関係団体等が連携を図り、県民の健康づくりを総合的に推進するため、「健康日本21あいち新計画」を策定しました。

これらの計画の評価の結果等を踏まえ、「第3期健康日本21あいち計画」が令和6年度から開始予定です。



(2) 食育推進

国の動向や食を取り巻く様々な課題に対応するため、平成18年に愛知県食育推進会議を設置し、「あいち食育いきいきプラン（愛知県食育推進計画）」を策定し、その後、平成27年に「あいち食育いきいきプラン2015」、令和2年に「あいち食育いきいきプラン2020」を策定することで、食育を県民運動として推進してきました。

さらに、令和3年3月にはこれまでの取組を「継承」とともに、多様な主体同士の連携や新しい生活様式の実践、SDGs（持続可能な開発目標）達成への貢献などを踏まえ、取組を「SHIN化（しんか）」（新化・進化・深化・伸化）させた「あいち食育いきいきプラン2025（第4次愛知県食育推進計画）」を策定しました。

この計画では「食を通じて健康な体をつくる取組」「食を通じて豊かな心を育む取組」「食を通じて環境に優しい暮らしを築く取組」「食育を支える取組」の4つの取組を推進することで「食育の実践による健康で活力ある社会の実現」を目指しています。



(3) 自殺対策

平成18年に施行された「自殺対策基本法」及び平成19年6月に閣議決定された「自殺総合対策大綱」を踏まえ、愛知県における自殺対策を総合的かつ効果的に推進するための具体的な取組を定めることを目的として、平成20年3月に「あいち自殺対策総合計画」を策定しました。

その後、国の自殺総合対策大綱の見直しにあわせ、平成25年3月、平成29年3月に計画の見直しが行われました。

また、令和4年には、国で新たに閣議決定された自殺総合対策大綱や、「子ども・若者の自殺対策」、「新型コロナウイルス感染症の拡大の影響」等の新たな自殺を取り巻く現状・課題等を踏まえ、令和5年6月開始の「第4期愛知県自殺対策推進計画」を策定しました。



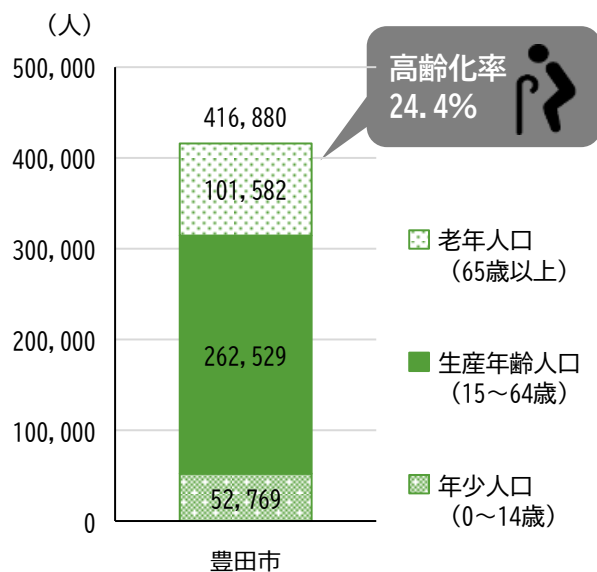
第2章 豊田市の現状

1 統計データから見る豊田市の現状

(1) 人口

本市の人口は、2023年10月1日現在、416,880人で、高齢化率は24.4%です。

図表1 人口

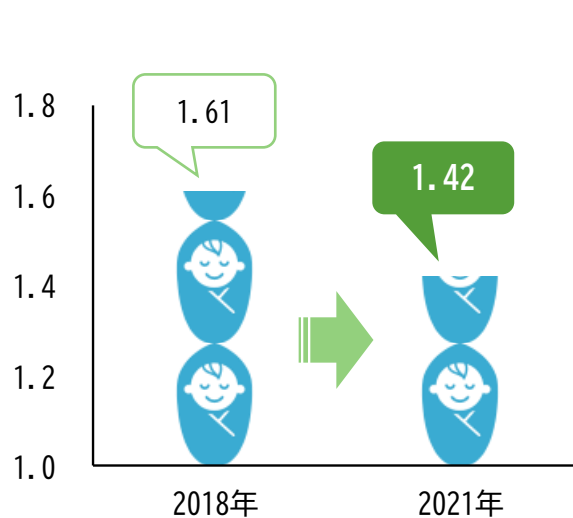


資料：Web 統計とよた（2023年10月1日現在）

(2) 合計特殊出生率

合計特殊出生率は減少傾向にあり、2021年は1.42となっています。

図表2 合計特殊出生率の推移

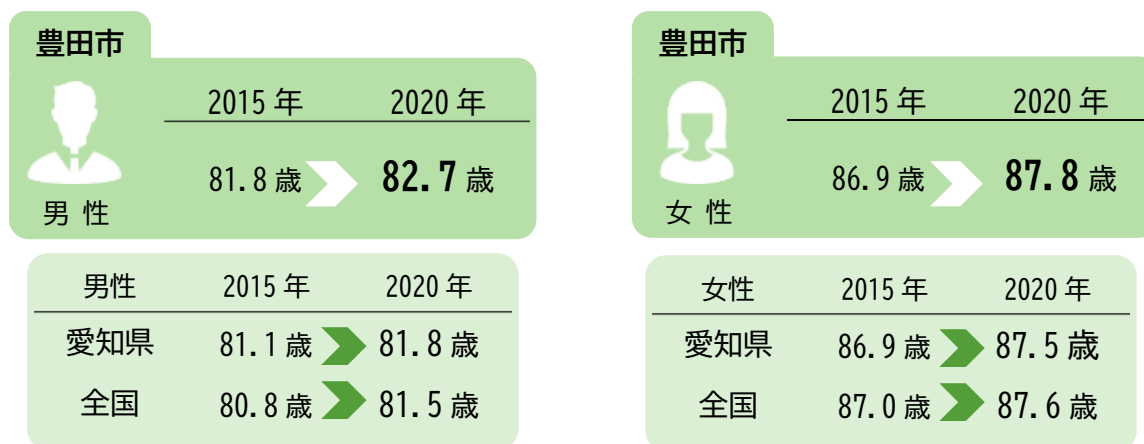


資料：豊田市保健福祉レポート 2023

(3) 平均寿命

本市の平均寿命は2020年で、男性は82.7歳、女性は87.8歳となっています。

図表3 平均寿命の推移

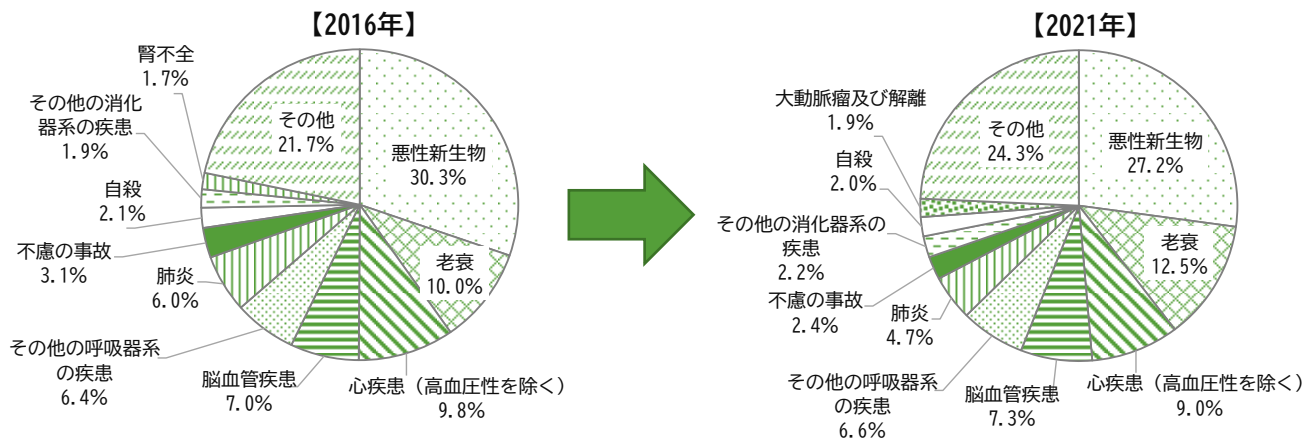


資料：厚生労働省市市区町村別生命表

(4) 主要死因別死亡割合

2021年の主要死因別死亡割合を見ると、「悪性新生物」が27.2%、「老衰」が12.5%、「心疾患」が9.0%となっています。

図表4 主要死因別死亡割合の推移

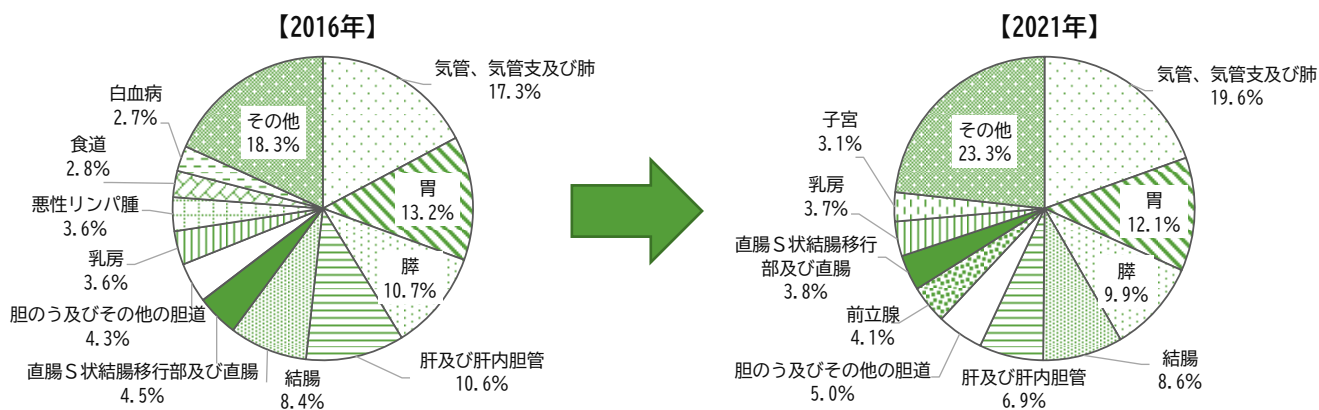


資料：豊田市保健福祉レポート 2018、2023

(5) 悪性新生物の部位別構成比

2021年の悪性新生物の部位別構成比を見ると、「気管、気管支及び肺」が19.6%、「胃」が12.1%、「膵 (すい)」が9.9%となっています。

図表5 悪性新生物の部位別構成比の推移



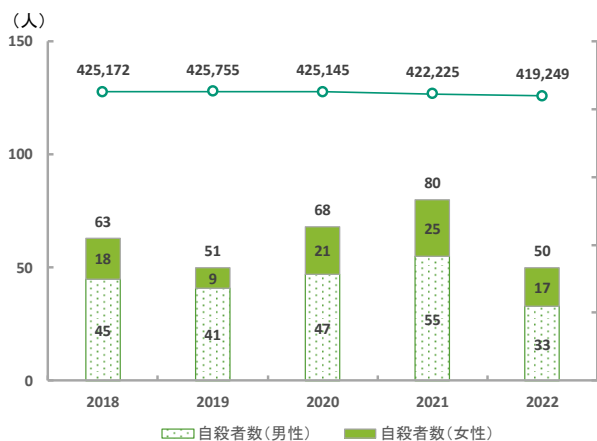
資料：豊田市保健福祉レポート 2018、2023

(6) 自殺の現状

①本市の人口と自殺者数

自殺者数は、2018年から2022年の5年で人口は減少しており、自殺者も減少しております。

図表6 自殺者数

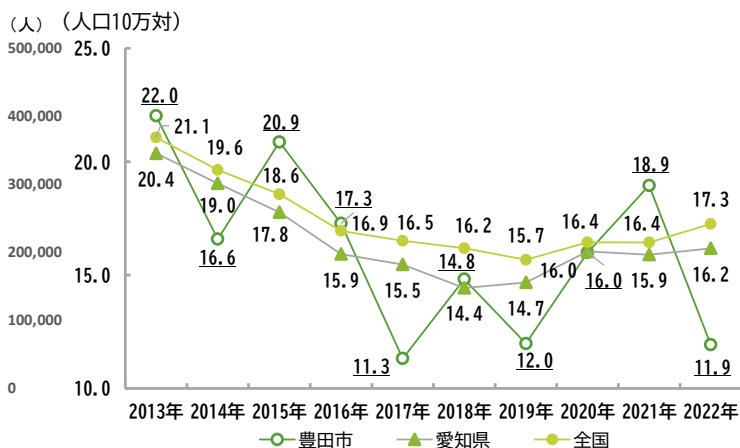


資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」、住民基本台帳（総人口）

②自殺死亡率（愛知県・全国との比較）

自殺死亡率をみると、全国では増加していますが、本市においては減少傾向にあります。

図表7 自殺死亡率



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

③本市の自損行為出動件数年次推移

本市の緊急出動件数の年次推移は、出動件数が2022年には178件となっております。また、2018年から90人台を推移していた未遂件数は2022年に113件と増加しています。

図表8 緊急出動件数

自損行為内訳	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
出動件数 単位：件	186	144	152	140	133	172	157	181	185	178
搬送件数 単位：件	112	89	86	86	88	118	104	120	110	121
搬送人員 単位：人	112	89	86	86	88	118	104	120	110	121
死亡 単位：人	15	12	23	17	7	23	11	27	22	8
未遂 単位：人	97	77	63	69	81	95	93	93	88	113
全体出動件数：件	17,246	17,027	17,666	18,041	18,213	19,262	19,162	16,721	17,403	20,893

資料：救急統計（豊田市消防本部）

2 計画の評価から見る豊田市の現状

2022年に実施した「健康に関する市民生活実態調査」やその他の実績等を踏まえ、前計画の評価を行いました。

【調査の概要】

調査対象者	12歳以上の市民5,500人と3～6歳児の保護者500人			
抽出方法	年齢区分ごとに無作為抽出			
調査方法	郵送による配布及び返信（インターネットによる回答含む）			
調査期間	2022年8月22日～9月9日			
配布数及び回収数	調査票種別	配布数	回収数	回収率
	①3～6歳児保護者	500件	254件	50.8%
	②小学6年生・中学1年生・中学3年生	1,500件	803件	53.5%
	③16歳以上	4,000件	1,852件	46.3%
	合計	6,000件	2,909件	48.5%

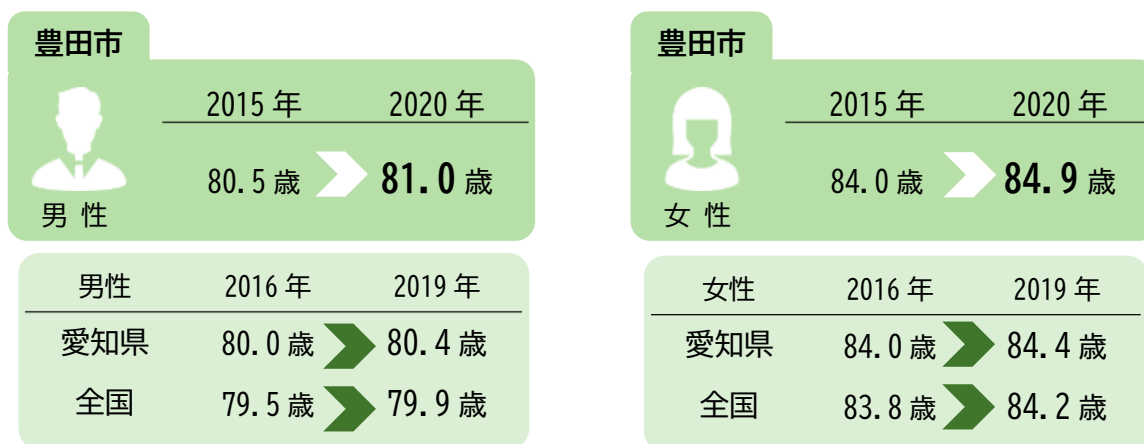
★ 2022年7月1日時点の満年齢で抽出

（1）主な成果

① 健康寿命

男性、女性ともに健康寿命は延伸しており、全国・愛知県よりも概ね高い数値となっています。

図表9 健康寿命¹

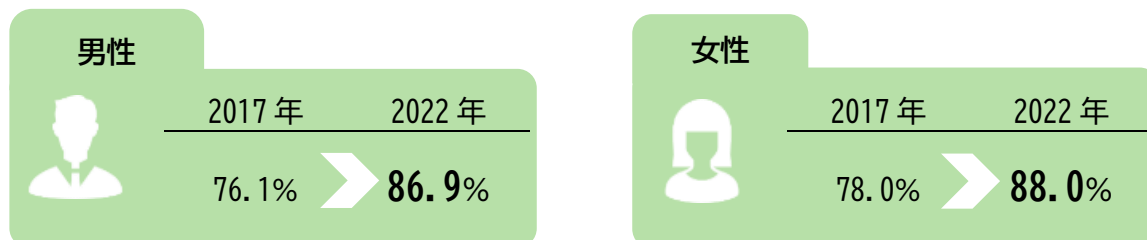


¹ 「厚生労働省が推奨する健康寿命の3つの算出方法の1つである介護保険の要認定者数に基づく方法を用いて算定」

② 健康づくりに取り組む市民

各種キャンペーン・イベントの実施、健康講座等の開催等により、健康づくりに取り組む市民が増加しました。

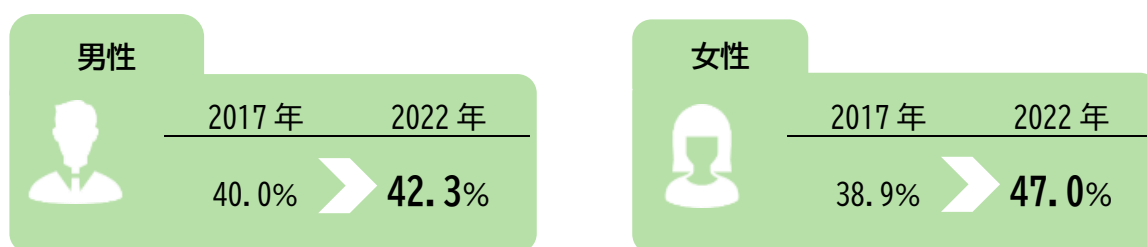
図表10 健康づくりに取り組む市民



③ 主観的健康感（観）

自分の健康状態を「(非常に)健康である」と感じている市民が増加しました。

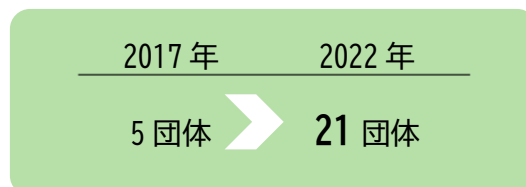
図表11 主観的健康感（観）



④ 健康づくりに参画する企業・団体

民間事業者等との連携による各種啓発、地域における意見交換会等を実施したことにより、健康づくりに参画する企業や団体等が増加しました。

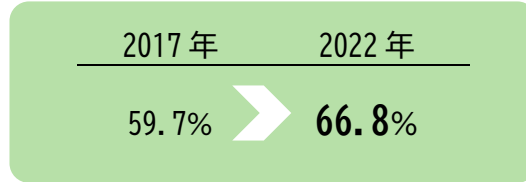
図表12 健康づくり事業等に参画する企業や団体



⑤ 地域の相談機関を知っている人

市民や事業者等の多様な対象に向け、相談機関一覧を配布したことにより、地域の相談機関を知っている人の割合が増加しました。

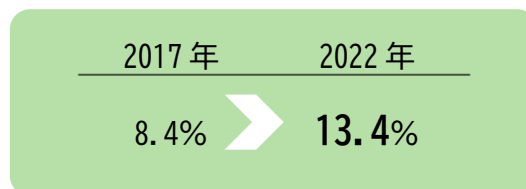
図表13 地域の相談機関を知っている人



⑥ ゲートキーパーを知っている人

自殺予防キャンペーンとして広く普及・啓発を実施したことにより、ゲートキーパーを知っている人の割合が増加しました。

図表14 ゲートキーパーを知っている人

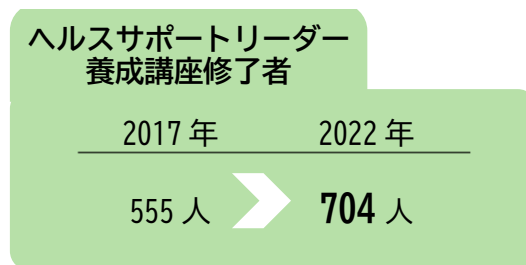


(2) 主な課題

① ヘルスサポートリーダー活動者数

ヘルスサポートリーダー養成講座修了者の数が増加しましたが、高齢化、新型コロナウイルス感染症の影響等により活動者数が減少しました。

図表15 ヘルスサポートリーダー養成講座修了者



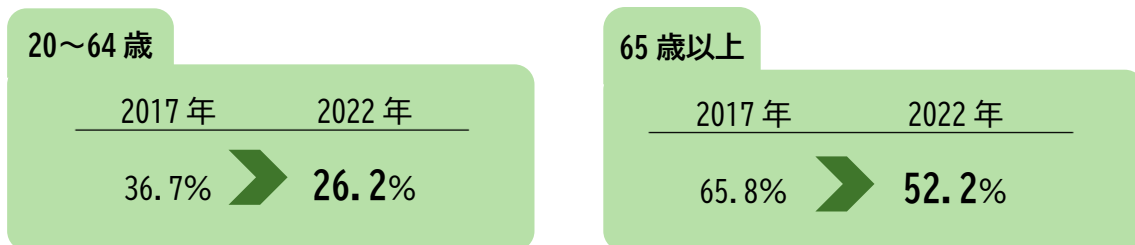
図表16 ヘルスサポートリーダー活動者数(延べ)



② 地域との付き合いをしている人

地域のつながりの希薄化が進んでおり、地域との付き合いをしている人の割合が低下しました。

図表17 近所づきあいをしている人



③ 自主活動グループ数

自主活動グループの数は増加しましたが、目標値には達していません。

図表18 自主活動グループ数



3 ヒアリング結果から見る豊田市の現状

関係団体、中小企業等の現状や取組を把握し、今後の事業検討を行うためのヒアリングを実施しました。

ヒアリング先	主な意見
地域で活動する団体 (自治区等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、地域活動が少なくなりました。活動を再開しても以前よりも参加者が減りました。 ・ 地域活動の参加者が特定の人に偏っている。若い世代や働く世代の参加が少ない。 ・ 自治区役員や民生委員など、担い手が不足している。
スーパー 店舗	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総菜等でヘルシーメニューを売りにしてもあまり売れない。 ・ チラシの配布、ポスターの掲示よりも、体験できる機会を増やすことで意識・行動変容につながると思う。
中小企業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社員に対する健康づくりを実施したくても人員が少ないためできない。健診後の要精密検査者に対するフォローもできていない。 ・ 健康教室等を実施し社員からの反響もあったが、単発で終わってしまっている。継続できていない。 ・ 20～30代の社員は健康づくりに関心がない。年代が高くなるほど健康意識は高くなるが、健診結果も悪くなる傾向にある。 ・ 社員本人だけでなく、家族にも健診を受けてもらいたいが、なかなか難しい。 ・ 面談を行うことによりコミュニケーションもとれ、メンタル面のサポートもしやすくなった。
健康保険組合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により在宅勤務者が増え、メタボ率が上昇している。また、医療費の伸び率が増加している。 ・ 健診の受診率向上を目指し、インセンティブ（ポイント付与、家電が当たるキャンペーン等）を付与することで受診率は向上しつつある。
高校・大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン授業により、人と会わなくて良いことで救われたという意見があった。 ・ 後援会等の協力により、朝食を100円で提供している大学がある。 ・ 精神疾患など生徒に伝えることができる専門家がいるとよい。 ・ ゲートキーパーなどの自殺対策について、教員向けの研修があるとよい。 ・ 朝食は生活習慣の基盤であり、小中学校からの健康教育の積み重ねが大きい。

4 計画策定のポイント

前計画の評価、国・愛知県の動向、社会情勢の変化等を踏まえ、本計画は以下の4つのポイントで策定していきます。

① 幅広い世代へのアプローチ

前計画でアプローチが不足していた若者世代や働く世代を対象に、新たな健康づくり施策を推進していきます。

② 多様な主体との連携強化

ボランティアや民間事業者等との連携を強化し、まちぐるみの健康づくり活動を発展させていきます。

③ 感染症に負けない健康づくり

基礎疾患を予防して感染症による重症化リスクを低減させるため、生活習慣の改善や健診（検診）の受診を推進していきます。

④ ICTの積極的な活用

多様化する社会参加や健康づくりの取組に対して、ICTを活用したオンライン講座、研修等を推進します。また、個人で取り組む健康づくりを後押ししていきます。



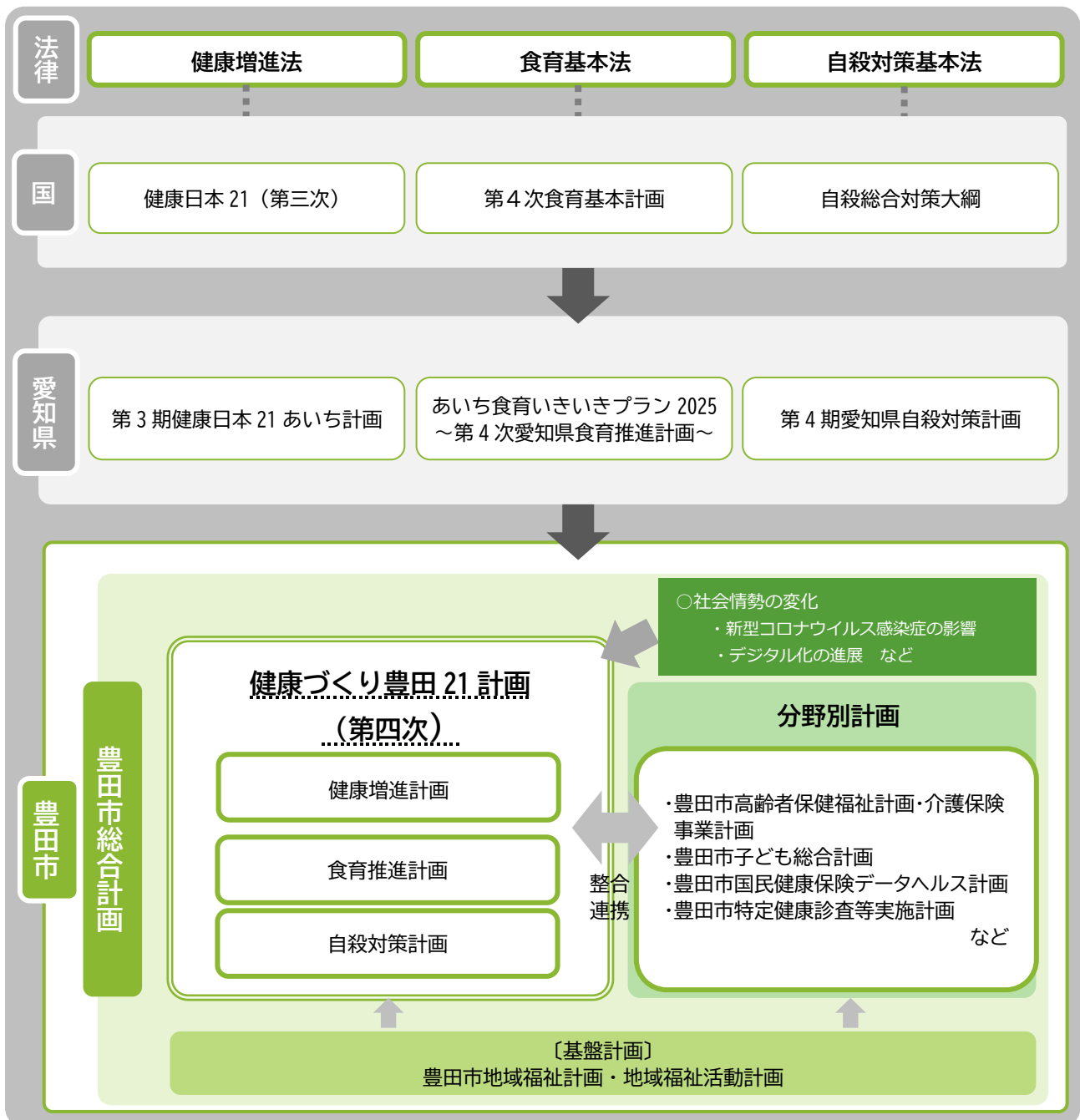


第3章 計画の基本的な考え方

1 計画の目的・位置づけ

本計画は、健康増進法第8条第2項に基づく市町村健康増進計画、食育基本法第18条に基づく市町村食育推進計画及び自殺対策基本法第13条第2項に基づく市町村自殺対策計画として策定します。また、3つの計画を一体的に策定することで、より効果的に市民の健康増進等の推進に関連する施策を展開します。

●上位計画・関連計画等との関係



2 計画の期間

本計画の期間は、2024年度から2029年度までの6年間とし、計画中に状況の変化が生じた場合には、必要に応じて見直すこととします。

	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	2033 R15	2034 R16	2035 R17
(国) 健康日本21	第三次（12か年）											
(県) 健康日本あいち21 計画	第3期（12か年）											
(国) 食育推進計画	第4次	（5か年）										
(県) あいち食育いきいき プラン2025	第4次	（5か年）										
(国) 自殺総合対策大綱	5か年											
(県) 愛知県自殺対策 推進計画	第4期（5か年）											
健康づくり豊田21 計画	第四次（6か年）											



3 基本理念・基本指標

基本理念

まちぐるみ 心とからだの 健康づくり

～元気な未来 ずっとキラキラ～

基本指標

- 1 健康寿命の延伸
- 2 健康づくりに取り組む市民の増加
- 3 主観的健康感（観）の向上
- 4 自殺死亡率の低下

健康づくりの取組を推進していくためには、市民一人ひとりが主体的に生活習慣の改善に取り組むとともに、健康づくりの取組を継続できるような環境をまちぐるみで作っていくことが重要であることから、前計画では基本理念を「まちぐるみ 心とからだの健康づくり」と決めました。

前計画で実施してきた健康づくりの各種取組により、まちぐるみの健康づくりに一定の成果が出ていることから、本計画の基本理念も前計画を引き継ぐものとします。

なお、本計画では、多様な働き方や社会参加が広がる中、健康づくりの取組を行うことによって、誰もがいつまでも自分らしく健やかに暮らし続けられるよう「元気な未来 ずっとキラキラ」というサブタイトルを追加しました。

また、基本指標については、「健康寿命の延伸」「健康づくりに取り組む市民の増加」「主観的健康感（観）の向上」を前計画から引き継ぐとともに、自殺対策の指標として「自殺死亡率の低下」を追加しました。

基本指標	現状値		目標
	男性	女性	
健康寿命の延伸	81.0 歳	84.9 歳	↗
健康づくりに取り組む市民の増加	86.9%	88.0%	↗
主観的健康感（観）の向上	42.3%	47.0%	↗
自殺死亡率の低下（過去 5 年間の平均値）	14.7（10 万人あたりの自殺者数）		↘

4 計画のスローガン（健康づくりの合言葉）

本計画を広く市民に周知し、市民が自ら健康づくりを進めていくためのスローガン（健康づくりの合言葉）を以下のように設定します。

具体的には、市民一人ひとりが各分野で自分なりの「プラス10（じゅう）」を設定していただき、健康づくりの取組を実施していただくことで、市民の健康意識の向上を進めていきます。

とよた健康プラス10（じゅう）

5 基本目標

本計画の基本理念を実現するため、以下の3つの基本目標を設定します。

基本目標① 健康への関心をより高める

市民一人ひとりの健康に対する関心を高めるためには、幅広い世代に対する継続的な働きかけが必要です。特に、感染症の重症化リスクを抑えるためには、生活習慣の改善や定期的な健診（検診）受診が重要となります。地域、学校、団体、民間事業者等、多様な主体と連携し、様々な機会を通じて働きかけを行い、健康についての意識を向上させるとともに、健康づくりの正しい理解を促進していきます。

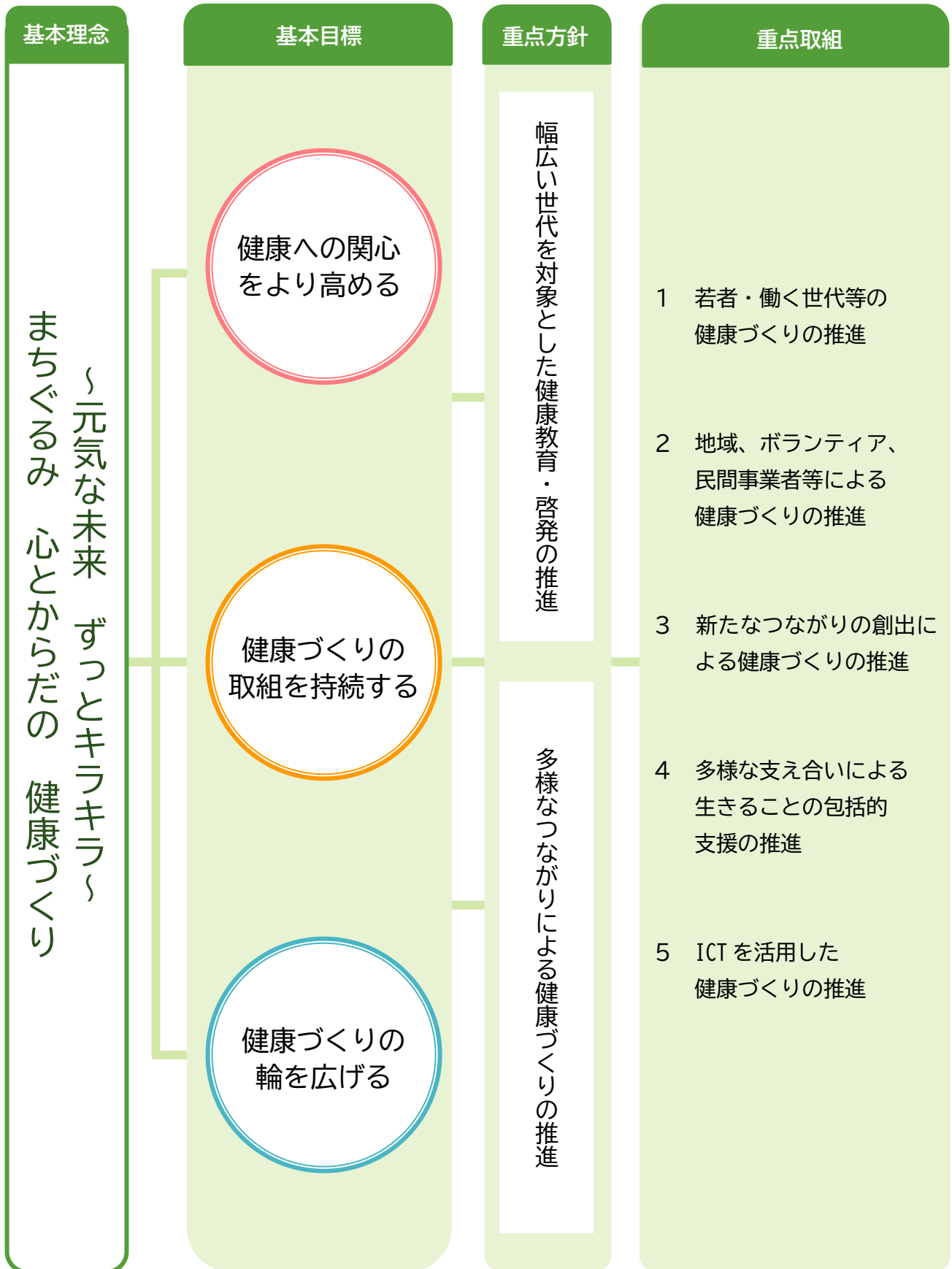
基本目標② 健康づくりの取組を持続する

市民一人ひとりが生涯にわたって健康で過ごすためには、健康づくりの取組を継続することが重要です。個人の特性に合わせた働きかけを行い、市内の健康づくりの場への参加を促進していきます。また、自殺対策に関しては、支援が必要な人を相談窓口につなげ、様々な支援機関との連携による伴走型の支援を推進していきます。

基本目標③ 健康づくりの輪を広げる

市民一人ひとりが健康づくりの意識を高め、取組を維持していくためには、個人だけでなく、まちぐるみで健康づくりに取り組む必要があります。働き方及び社会参加のあり方が多様化する中、健康づくりに関する新たなつながりを支援し、地域、学校、団体、民間事業者等、様々な主体の連携を促進させることで、地域全体の健康づくり活動を活性化させていきます。

6 計画の体系図



健 康 づ く り の 合 言 葉

施策メニュー

主な取組

個人で取り組む

健診（検診）・
保健指導の推進

身体活動・運動の推進

こころの健康づくり
の推進

栄養・食生活の改善
食育の推進

歯・口の健康づくり
の推進

飲酒・喫煙・薬物乱用
の防止等に関する
啓発の推進

みんなで取り組む

地域等との連携

支援機関等との連携

民間事業者等との連携

健康づくりを支える
人材の育成

- 各種健診（検診）、特定保健指導（受診勧奨の実施）
- 豊田市の健康課題を基にした保健指導・助言
- 各種健康相談事業
- とよた健康マイレージ事業
- おでかけバス 70
- 集いの場へのコーディネート事業
- 介護予防事業（元気アップ事業、ずっと元気！プロジェクト等）
- 各種健康教育（出前講座・学校教育）
- 高齢者（70 歳以上）の公共施設使用料無料化
- こころの健康づくり講演会
- 精神保健福祉地域普及講演会
- 児童生徒の SOS に関する事業
- ゲートキーパー養成研修
- こころの健康づくりに関する各種啓発（相談窓口一覧、自殺予防週間、自殺対策強化月間等）
- 妊産婦・乳幼児訪問
- 親子食育講座（出前講座・支援センター）
- 栄養相談
- 高校生以降の若い世代を対象とした栄養教育の実施
- 給食による地産地食の推進
- 食育に関する各種啓発（食育月間、野菜の日等）
- 親子むし歯予防教室
- 歯科健康診査（幼児・妊産婦・成人）
- 6 歳臼歯保護育成事業（園児向けよい子の歯みがき運動）
- 口腔機能向上支援事業（高齢者向けお口の健康教室）
- 歯科保健に関する各種啓発（歯っぴかフェスタ、いい歯の日キャンペーン）
- 禁煙治療費助成事業
- 飲酒・喫煙に関する学校啓発
- 禁煙・受動喫煙に関する啓発（世界禁煙デー、禁煙週間事業）
- 薬物乱用防止「ダメ。ゼッタイ。」普及運動
- わくわく事業（健康づくり関連事業）
- 豊田市の健康課題を基にした保健指導・助言
- ヘルスサポートリーダーの養成・活動支援
- 介護予防事業（元気アップ事業、ずっと元気！プロジェクト等）
- 集いの場へのコーディネート事業
- 重層的支援体制推進事業
- 豊田市ささえあいネット
- 児童生徒の SOS に関する事業
- 豊田市相談窓口一覧作成・配布
- 共働によるまちづくりパートナーシップ協定（包括連携協定）を活用した健康づくり事業
- 介護予防事業（元気アップ事業、ずっと元気！プロジェクト等）
- 働き方改革推進事業
- 豊田市の健康課題を基にした保健指導・助言
- 管内保健師研究会等での健康課題の共有
- 健康相談事業
- ヘルスサポートリーダーの養成・活動支援
- ゲートキーパー養成研修

「とよた健康プラス10（じゅう）」



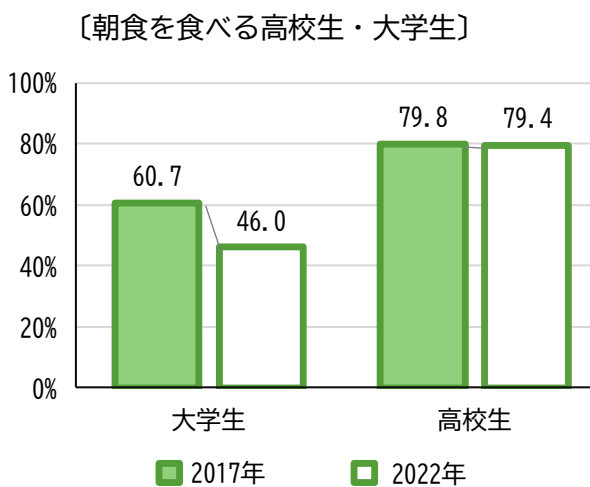
第4章 重点取組

重点取組1 若者・働く世代等の健康づくりの推進

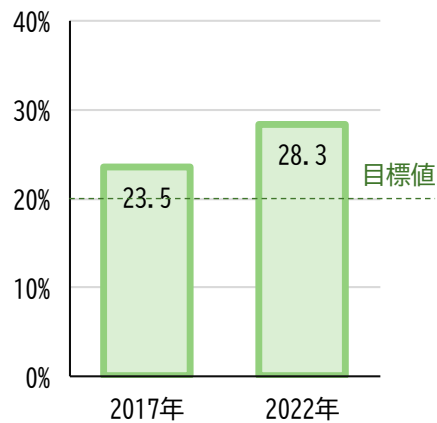
(1) 重点的に取り組む理由

健康で自分らしく活躍し続けるためには、若いうちから健康に関する正しい知識を身に付け、正しい知識に基づいた健康づくり活動を継続することが重要です。

本市の調査によると、朝食を食べない高校生・大学生の割合が増加しているほか、20～29歳の女性のやせ者の割合も増加するなど、若い世代の栄養・食生活に関する正しい知識が不足していると考えられます。



〔20～29歳女性のやせ者（BMI18.5未満）〕



資料：健康に関する市民生活実態調査

本市では、若いうちから健康づくりが身に付くよう、小中学生とその保護者を対象とした健康教育を進めてきましたが、高校生や大学生に対する健康教育は十分にできていませんでした。朝食を食べることの必要性、野菜摂取量の大切さ、適正体重に加え、喫煙、飲酒、睡眠、薬との付き合い方など、健康に関する正しい知識を伝えていくため、高校生・大学生を対象とした健康教育を展開していく必要があります。



(2) 主な取組

①高校生・大学生等を対象とした健康講座（拡大）

包括連携協定締結企業等と連携し、希望する学校に講師等を派遣していきます。

②健康アプリを活用した健康づくり（拡大）

「あいち健康プラス」などの健康アプリを活用し、主に働く世代を対象に健康づくりの意識向上を図っていきます。

③乳幼児・小中学生に対する健康啓発（継続）

親子食育講座、むし歯予防教室等、乳幼児・小中学生に対して健康教育を実施していきます。

(3) 指標

成果指標	現状値	目標値
学校・民間事業者等を対象とした講座等の実施回数	5回	20回
健康づくりアプリの登録者数	1,522人	5,000人

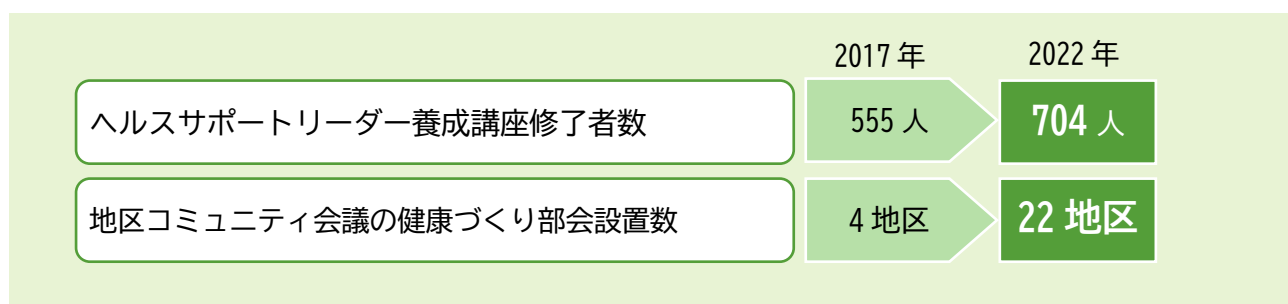


重点取組2 地域、ボランティア、民間事業者等による健康づくりの推進

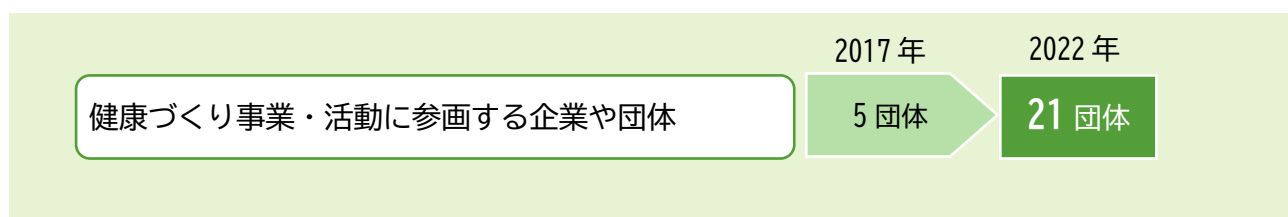
(1) 重点的に取り組む理由

本市では、地域の特性に応じた健康づくりを住民との共働により取り組んだほか、健康づくりボランティアであるヘルスサポートリーダーを育成・養成するなど、地域ぐるみの健康づくり活動を推進しており、健康づくり教室、ウォーキングイベントなど、地域主体の取組が定着してきています。

一方で、地域のつながりの希薄化等による地域活動の担い手不足や高齢化等の影響により、従前の地域主体の健康づくり活動を持続することが難しい状況となっています。



また、近年、従業員の健康を重要な経営資源として捉え、国の「健康経営優良法人認定制度」等を活用し、従業員の健康づくりに積極的に取り組む事業者等が増えてきています。加えて、社会貢献の取組として地域での健康づくりを進める企業等もあり、豊田市ではこうした企業等と包括連携協定を締結しています。



一方で、事業者等で健康教室を実施しても継続することが難しいといった声や、健康経営を進めたくても何から始めて良いか分からないといった声が、主に中小事業者等から挙がっていることから、健康づくりに関する事業者等からの相談対応や、各事業者等が実践している健康づくりの取組の情報に触れられる環境づくりが必要です。

(2) 主な取組

①学生発信の健康づくり（新規）

各分野の健康課題を解決するための取組を学生自身が考案し、効果的に情報発信を行います。また、学生自身が講師になって、学校や地域を対象とした講座を行っていきます。

②健康経営を進める民間事業者の拡大（新規）

国の「健康経営優良法人認定制度」をはじめとした既存の制度を活用し、セミナーや情報交換会を開催するなど、民間事業者の健康経営の意識向上を図っていきます。

③地域主体の健康づくり（継続）

地域特性に応じた地域主体の健康づくりを推進していきます。

(3) 指標

成果指標	現状値	目標値
民間事業者等を対象としたセミナー、 情報交換会等の実施回数	2回	5回
地域を対象とした 講座・教室の実施回数	255回	270回



重点取組3 新たなつながりの創出による健康づくりの推進

(1) 重点的に取り組む理由

地域には地域主体の健康づくり活動の他に、民間事業者等が実施する健康教室など、多くの健康づくりに関する資源がありますが、その存在はあまり知られていません。こうした情報を集約し、誰もが健康づくりの場に関する情報に触れられる環境づくりを進めることで、健康づくりに関する資源と地域をつなぎ、新たな健康づくり活動を展開していく必要があります。

地域に健康づくりの拠点、自主グループがあることを知っている人の割合

2017年

21.7%

2022年

25.0%

また、地域では地区担当保健師のほか、社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー、障がい者相談支援事業所等、様々な支援機関が地域の課題を把握し、それぞれが地域づくり活動を行っています。より効果的・効率的に地域づくりを進めるためには、各機関が把握している課題や地域資源、地域づくり活動の成功事例などを共有するなど、各機関同士の連携を強化する必要があります。

加えて、市役所内の連携を強化するとともに、各地域の課題を共有し、課題解決のための取組を検討するための体制を整備していく必要があります。



(2) 主な取組

①地域の社会資源を活用した健康づくり（新規）

地域に存在する健康づくりに関連する社会資源の情報を、ICTを活用した情報ツール（地域資源マップ）に反映させ、健康づくりの場へのコーディネートを行うとともに、地域とボランティア、民間事業者等とのマッチングを行うことで、地域の健康づくりの活性化を図っていきます。

②健康づくりネットワークの構築（新規）

地域、ボランティア、民間事業者等がつながるネットワークを構築することで、各主体で実施する健康づくりの取組の成功例や課題を踏まえた新たな事業の検討、全市的な事業展開、啓発活動等を行っていきます。また、健康分野に限らず、様々な分野と連携することで、健康づくりに関心が無い市民でも自ら関わっていけるような取組等を実施していきます。

(3) 指標

成果指標	現状値	目標値
健康づくりの場への コーディネート実施回数	-	140回
多様な主体と連携して 行う事業の実施数	-	200回

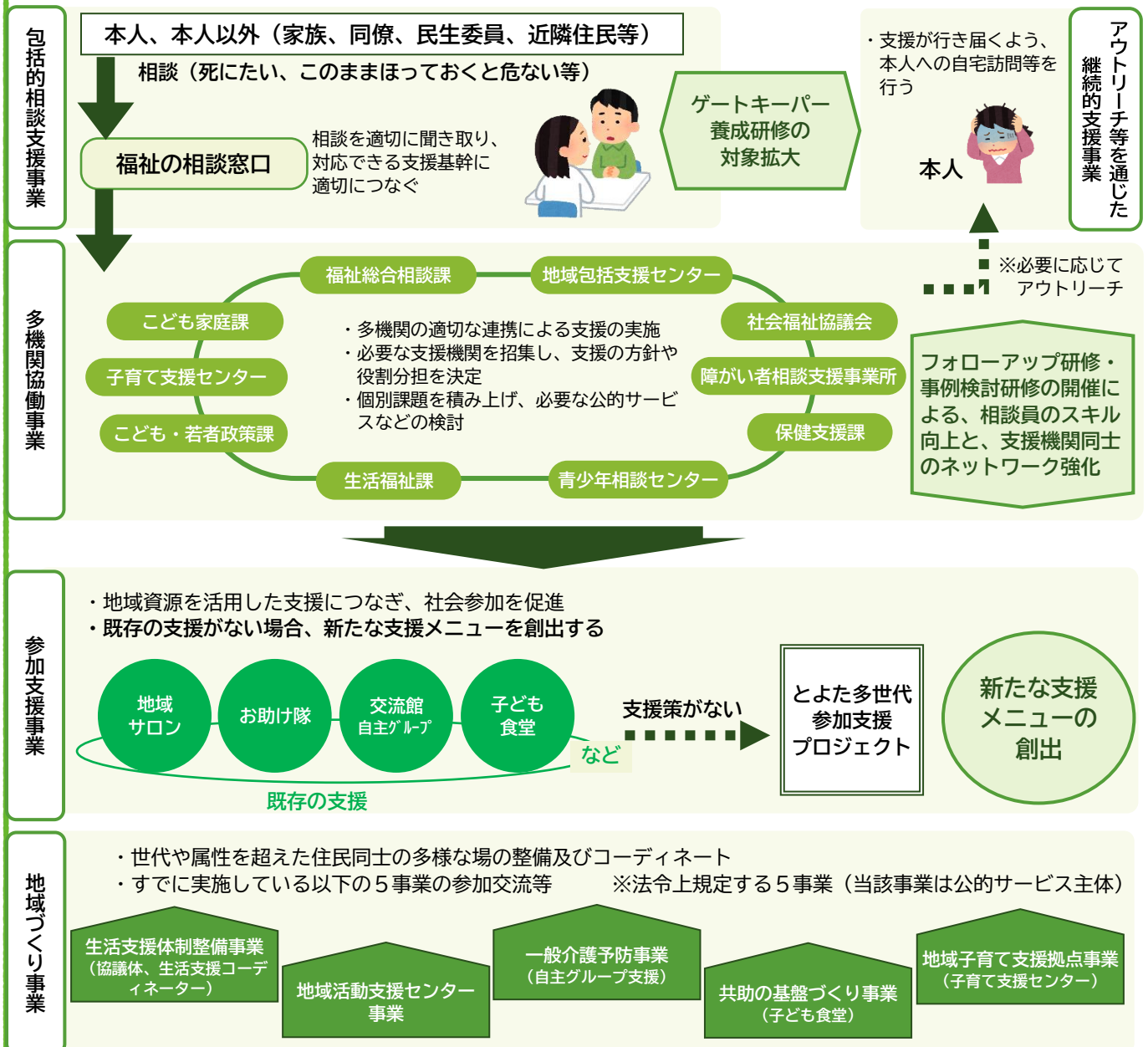
重点取組4 多様な支え合いによる生きることの包括的支援の推進

(1) 重点的に取り組む理由

本市では、「重層的支援体制推進事業」として、旧市内5支所の「福祉の相談窓口」等身近な地域で世代や属性を超えて相談を受け止め、必要な支援機関に繋ぐとともに、複雑な課題に対しては支援機関のネットワークを活用して円滑な連携の下で支援できるよう体制を整備し、誰一人取り残さない包括的な支援体制の構築を進めています。こうした体制の下で、自殺リスクのある方も含め、様々な支援機関の連携による伴走型の支援を実施していきます。

また、できるだけ多くの目で自殺リスクのある方を把握する必要があることから、ゲートキーパー養成研修の対象を拡大するとともに、支援者を対象としたスキルアップ研修を実施する必要があります。

【重層的支援体制推進事業】



また、本市では児童生徒への SOS に関する事業として、道徳教育や人権教育等を通じて、生命の尊さを学ぶとともに、市内の小中学校における相談体制の確保や相談窓口の周知を図ることで、児童生徒が SOS の発信や、SOS の受け止め方について学ぶ環境を整えてきました。

加えて、国の自殺総合対策大綱のポイントの1つとして「子ども・若者の自殺対策の更なる推進・強化」が掲げられていることから、引き続き、こころの健康教育を推進していく必要があります。



(2) 主な取組

①重層的支援体制推進事業（継続）

ア 包括的相談支援事業

介護・障がい・子育て・生活困窮分野の各相談支援機関が、相談者の属性に関わらず相談を受け止め、課題の解きほぐしや整理を行い、必要な支援機関につなぎます。

イ アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

複雑化・複合化した課題を抱えながらも支援が届いていない人を把握し、本人との信頼関係の構築やつながりの形成に向けた支援を行います。

ウ 多機関協働事業

複雑化・複合化した支援ニーズがある場合は、複数の支援機関での役割分担や支援の方向性を定め支援を行います。

エ 参加支援事業

既存の事業では対応できない対象者に応じた支援メニューを創出し、マッチングやフォローアップ等を行います。

オ 地域づくり事業

地域の社会資源を把握し、世代や属性を超えて住民同士が交流できる場や居場所を整備するためのコーディネート等を行います。

②ゲートキーパー養成研修（拡大）

市職員、民生委員・児童委員を対象としたゲートキーパー養成研修に加え、社会福祉協議会等の相談窓口を対象としたスキルアップ研修、民間事業者等を対象とした研修等を実施していきます。

③ハートサポートプログラムに基づくこころの健康教育（継続）

小中学生を対象としたSOSの出し方に関する教育、命を大切にせる授業づくり等を推進していきます。

(3) 指標

成果指標	現状値	目標値
ゲートキーパー養成研修の実施回数（対象別）	14回	20回
児童・生徒への「命の尊さを学ぶ教育」等の実施	全ての公立小中学校において実施	全ての公立小中学校において実施

重点取組5 ICTを活用した健康づくりの推進

(1) 重点的に取り組む理由

国から、デジタル革新と人々の想像力の融合で新たな価値を生み出す「Society 5.0」の実現や「IT 新戦略²」の方針が示される中、新型コロナウイルス感染症の影響により、社会や個人の価値観の変容が加速し、ICTが果たす役割がより重要になってきています。

本市においても、2020年7月に「豊田市 ICT 活用ビジョン」を策定し、ICTの活用による課題解決を図るためのめざす姿や基本的な考え方、方向性を決めました。

多様化する社会参加活動や健康づくりの取組に対応するため、オンライン講座や健康アプリなど、ICTを活用した健康づくりを進める必要があります。

(2) 主な取組

①オンライン講座の実施（拡大）

デジタル化による通いの場の変化への対応としてより多くの市民が参加できるよう、オンライン方式での講座を実施していきます。

②ICTを活用した学生向け情報発信（新規）

市内の高校・大学と連携し、学校ごとにあるポータルサイト等を用いて健康情報を発信していきます。

③健康アプリを活用した健康づくり（拡大）【再掲】

「あいち健康プラス」などの健康アプリを活用し、主に働く世代を対象に健康づくりの意識向上を図っていきます。

④地域の社会資源を活用した健康づくり（新規）【再掲】

地域に存在する健康づくりに関連する社会資源の情報をICTを活用した情報ツール（地域資源マップ）に反映させ、健康づくりの場へのコーディネートを行うとともに、地域とボランティア、民間事業者等とのマッチングを行うことで、地域の健康づくりの活性化を図っていきます。

(3) 指標

成果指標	現状値	目標値
オンライン講座の実施回数	1回	12回

² 2020年7月17日に閣議決定され改定された「世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画」を指します。



第5章 施策・事業の展開

分野1 個人で取り組む健康づくり

施策1 健診（検診）・保健指導の推進

(1) これまでの主な取組

- 国民健康保険加入者を対象に特定健康診査、後期高齢者医療制度被保険者を対象に後期高齢者医療健康診査を実施しました。
- がんを早期発見し、早期に治療に結びつけるため、各がん検診を実施しました。また、要精密検査者の未受診調査を徹底し、受診勧奨を実施しました。

(2) 成果・課題

- 定期健診、歯科健診、肺・大腸・子宮がん検診を受診する人の割合が増加しています。
- 胃がん、乳がん検診を受診する人の割合は減少しています。

項目	2017年	2022年
定期健診受診率	72.8%	75.1%
がん検診受診率	40～69歳 胃 55.9%	40～69歳 胃 52.5%
	40～69歳 肺 56.8%	40～69歳 肺 62.1%
	40～69歳 大腸 54.5%	40～69歳 大腸 55.5%
	40～69歳 女性 乳がん 57.3%	40～69歳 女性 乳がん 56.9%
	20～69歳 女性 子宮がん 44.8%	20～69歳 女性 子宮がん 52.0%
歯科健診受診率	49.6%	62.5%

- 健診（検診）の異常所見者の専門家による事後指導受診率について、男性は低下、女性は上昇していますが、年齢が若いほど事後指導の受診率が低い傾向にあります。

項目	2017年	2022年
健診（検診）の異常所見者の専門家による事後指導受診率	男性 64.9% (参考値：糖尿病)	男性 58.6%
	女性 57.4% (参考値：糖尿病)	女性 61.1%

- ・ 特定保健指導の実施率が低下しています。

項目	2017年	2022年
特定保健指導実施率 (国民健康保険)	12.0%	5.0%

(3) 今後の取組の方向性

- ・ 受診勧奨はがきの見直しを推進していきます。
- ・ 受講勧奨イベントの拡大を推進していきます。
- ・ 医療機関における初回分割実施のモデル実施の拡大を推進していきます。
- ・ ICTを活用した対象者へのプッシュ通知等を推進していきます。
- ・ 受診率・受講率向上の取組を推進していきます。

(4) 計画期間中の主な取組

- ・ 各種健診（検診）、特定保健指導（受診勧奨の実施）
- ・ 豊田市の健康課題を基にした保健指導・助言
- ・ 各種健康相談事業

施策2 身体活動・運動の推進

(1) これまでの主な取組

- ・ ウォーキング地区支援事業として、イベントで使用する啓発物品の配布やグッズ貸出を実施したほか、既存のウォーキングコースの整備及び啓発を実施しました。
- ・ 食事や運動などの健康づくり目標を90日間取り組み、定着することを目的に、とよた健康マイレージ事業を実施しました。
- ・ ベジタブル&トレーニング とよた プラス10として、民間事業者等を対象に健康づくり啓発シールを配布したほか、希望する民間事業所等に対し、野菜摂取の講座と運動の実技の教室を実施しました。

(2) 成果・課題

- ・ 運動習慣者の割合は、20～64歳でやや改善傾向がみられますが、65歳以上の運動習慣者の割合は減少しています。

項目	2017年	2022年
運動習慣者の割合	20～64歳 男性 25.6% 女性 15.8%	20～64歳 男性 26.8% 女性 18.6%
	65歳以上 男性 47.0% 女性 36.9%	65歳以上 男性 45.3% 女性 35.6%

- 肥満者の割合が増加しています。

項目	2017年	2022年
肥満者の割合	男性 25.3%	男性 26.5%
	女性 17.3%	女性 18.7%

(3) 今後の取組の方向性

- 認知症予防等も含めた運動する必要性、適正体重等について啓発するとともに、運動する機会を提供していきます。
- 民間を含めた健康づくりの取組を集約・公開し、そこへつなげるための仕組みを構築していきます。

(4) 計画期間中の主な取組

- とよた健康マイレージ事業
- おでかけパス70
- 集いの場へのコーディネート事業
- 介護予防事業（元気アップ事業、ずっと元気！プロジェクト等）
- 各種健康教育（出前講座、学校教育）
- 高齢者（70歳以上）の公共施設使用料無料化



施策3 こころの健康づくりの推進

(1) これまでの主な取組

- 自殺予防キャンペーンとして、「自殺予防週間（9月）」や「自殺対策強化月間（3月）」を実施し、自殺に関する正しい知識の普及啓発を進めました。
- 市民や事業者等を対象に相談機関一覧を配布したほか、事業者等を対象に「こころの健康づくりニュースレター」を配布しました。
- 市職員や支援者を対象としたゲートキーパー養成研修を実施しました。
- 「自己肯定感を高め、命を大切にする児童生徒の育成」をテーマに道徳教育を実施しました。また、実践した内容をまとめ、市内全小中学校に電子データを配付しました。
- 自殺予防教育をテーマにした現職研修を小中学校で実施しました。
- 全小中学生に相談窓口カードを配付しました。

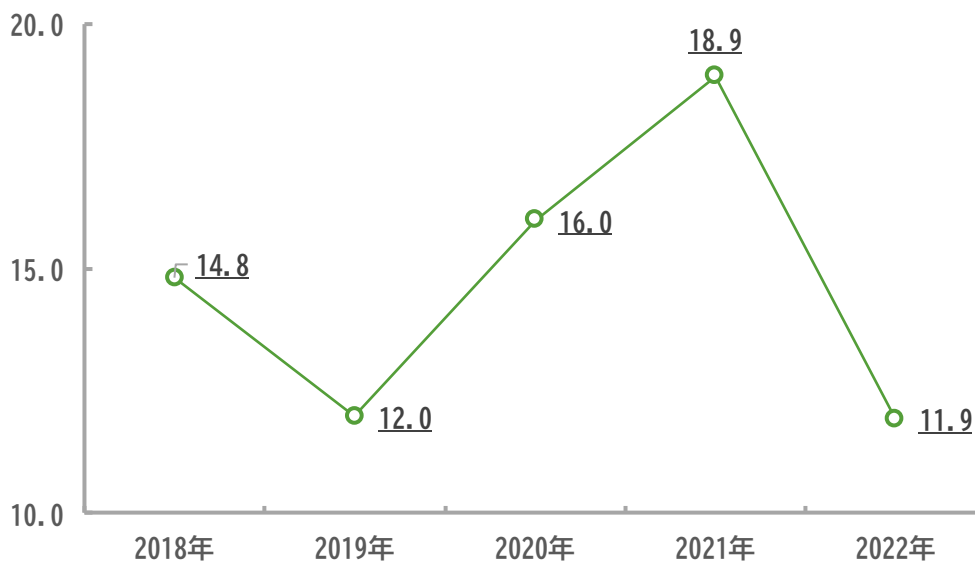
(2) 成果・課題

- 地域の相談機関を知っている人の割合が増加しましたが、ためらいなく相談することができる人の割合が減少しています。
- 悩んでいる人に声をかけ、話を聴こうと思う人の割合が減少しています。

項目	2017年	2022年
地域の相談機関を知っている人	59.7%	66.8%
ためらいなく相談することができる人	51.8%	42.9%
悩んでいる人に声をかけ、話を聴こうと思う人の割合	40.5%	35.7%

- 自殺死亡率が14.8（2018年）から11.9（2022年）へ2.9ポイント減少しており、改善しています。

（人口10万対）



- 「ゲートキーパー」という言葉を知っている人の割合が増加しました。

項目	2017年	2022年
「ゲートキーパー」という言葉を知っている人	8.4%	13.4%

(3) 今後の取組の方向性

- 相談窓口の情報発信、うつ病等の精神疾患に関する正しい知識の普及啓発を継続して実施していきます。
- 児童・生徒・学生に対する命の大切さ・尊さ、SOSの出し方等に係る教育・啓発等を推進していきます。
- 悩んでいる方のつなぎ先の周知を含めたゲートキーパー養成研修を推進していきます。
- 悩みや不安を抱えた妊産婦に対し必要な助言等を行うとともに、状況に応じて適切に関係機関と連携し支援を実施していきます。

(4) 計画期間中の主な取組

- こころの健康づくり講演会
- 精神保健福祉地域普及講演会
- 児童生徒のSOSに関する事業
- ゲートキーパー養成研修
- こころの健康づくりに関する各種啓発
(相談窓口一覧、自殺予防週間、自殺対策強化月間等)
- 妊産婦・乳幼児訪問



施策4 栄養・食生活の改善、食育の推進

(1) これまでの主な取組

- 「食育月間（6月）」や「野菜の日（8月31日）」の啓発として、市内スーパー等でチラシやのぼり旗を用いて啓発を実施しました。
- 「親子食育講座」「栄養教育(出前講座)」、「高校生への出前食育講座」、「若者向け食育啓発事業」等の食育講座を実施しました。
- こども園において、食育啓発冊子等を配布したほか、学齢ごとの年間指導計画を基に食育を実施しました。
- 各小中学校のカリキュラムに合わせた食育計画を作成し、学校の実態に合った食育指導を実施しました。

(2) 成果・課題

- 毎日朝食を食べる人の割合は全体では増加しており、改善傾向にありますが、「大学生」「高校生」で減少しています。

項目	2017年	2022年
毎日朝食を食べる人の割合	市民 85.3%	市民 89.5%
	大学生 60.7%	大学生 46.0%
	高校生 79.8%	高校生 79.4%

- ふだんバランスのいい食事をしている人の割合が増加しています。

項目	2017年	2022年
バランスのいい食事をしている人の割合	79.6%	84.6%

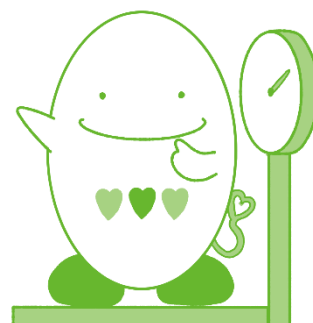
- 20～29歳女性のやせ者の割合が増加しています。

項目	2017年	2022年
やせ者の割合	20～29歳 女性 23.5%	20～29歳 女性 28.3%



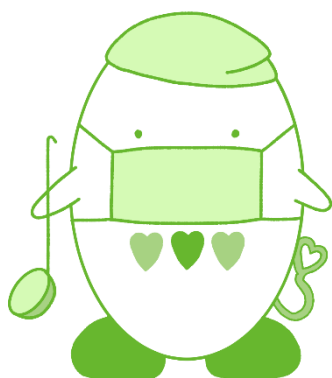
(3) 今後の取組の方向性

- 若者世代を中心に、食の大切さ、適正体重等を理解してもらえるよう、講座等を実施していきます。
- 野菜摂取量、塩分摂取量等に関心を持ってもらえるよう、体験型の講座等を推進していきます。
- 学校給食や動画等を活用するなど、小中学校やこども園における食育を継続していきます。



(4) 計画期間中の主な取組

- 親子食育講座（出前講座・支援センター）
- 栄養相談
- 高校生以降の若い世代を対象とした栄養教育の実施
- 給食による地産地食の推進
- 食育に関する各種啓発（食育月間、野菜の日等）



施策5 歯・口の健康づくりの推進

(1) これまでの主な取組

- 健康増進法等に基づき各種歯科保健事業(教育・相談・健診)を実施しました。
- 歯科保健関係団体(歯科医師会・歯科衛生士会等)と連携し歯科疾患の予防や歯・口腔の健康に関する正しい知識の普及啓発を実施しました。
- 歯の健康教育として「よい子の歯みがき運動啓発事業」、「口腔機能向上支援事業(高齢者お口の健康教室)」、「親子ピカピカ教室(むし歯予防教室)」を実施しました。
- 「歯っぴかフェスタ(6月)」、「いい歯の日キャンペーン(11月)」など、歯と口の健康づくりに関する正しい知識啓発を実施しました。

(2) 成果・課題

- 8020運動を知っている人の割合が増加しており、改善傾向にあります。

項目	2017年	2022年
8020運動を知っている人の割合	56.9%	71.9%

- 3歳児でむし歯がない人の割合の増加しており、改善傾向にあります。

項目	2017年	2022年
3歳児でむし歯がない人の割合	86.9%	91.0%

- 12歳児の一人平均むし歯数が減少しており、改善傾向にあります。

項目	2017年	2022年
12歳児の一人平均むし歯数	0.75 歯/人	0.44 歯/人

- 40歳における進行した歯周炎を有する人の割合が減少しており、改善傾向にあります。

項目	2017年	2022年
40歳における進行した歯周炎を有する人の割合	56.3%	44.2%

- 60歳代で咀嚼良好者が減少しており、悪化傾向にあります。

項目	2017年	2022年
60歳代の咀嚼良好者	45.7%	41.5%

(3) 今後の取組の方向性

- 歯科保健の関係機関と連携し、手法を見直しながら8020運動、歯・口の正しい知識の普及啓発等を継続
- 乳幼児に関して、1歳6か月・3歳児健診時に、健診の受診時期、かかりつけ医の必要性等について周知・啓発の実施
- むし歯や歯周病予防に加え、高齢者の口腔機能維持向上につながる取組を検討

(4) 計画期間中の主な取組

- 親子むし歯予防教室
- 歯科健康診査（幼児・妊産婦・成人）
- 6歳臼歯保護育成事業（園児向けよい子の歯みがき運動）
- 口腔機能向上支援事業（高齢者向けお口の健康教室）
- 歯科保健に関する各種啓発（歯っぴかフェスタ、いい歯の日キャンペーン）



施策6 飲酒・喫煙・薬物乱用の防止等に関する啓発の推進

(1) これまでの主な取組

- 小中学生とその保護者を対象とした啓発教材を作成・配布しました。
- 世界禁煙デーに合わせて、企業等と連携したクリーンアップ活動を実施しました。
- 禁煙治療費助成事業により、市民の禁煙に向けた取組を支援しました。

(2) 成果・課題

- 20歳未満の飲酒率が改善しています。

項目	2017年	2022年
20歳未満の飲酒率	男子中学1年生 5.4%	男子中学1年生 0.7%
	女子中学1年生 4.4%	女子中学1年生 3.3%
	男子高校3年生 18.4%	男子高校3年生 0.0%
	女子高校3年生 16.9%	女子高校3年生 0.0%

- 20歳以上の喫煙率が僅かに改善しています。

項目	2017年	2022年
20歳以上の喫煙率	12.5%	11.3%

(3) 今後の取組の方向性

- 高校生・大学生を対象とした飲酒・喫煙・薬物乱用の防止等に関する正しい知識の理解促進を図っていきます。
- 企業等との連携による禁煙週間に合わせた効果的な啓発活動を推進していきます。
- 禁煙助成制度の周知を含めた啓発を継続していきます。

(4) 計画期間中の主な取組

- 禁煙治療費助成事業
- 飲酒・喫煙に関する学校啓発
- 禁煙・受動喫煙に関する各種啓発（世界禁煙デー、禁煙週間事業）
- 薬物乱用防止「ダメ。ゼッタイ。」普及運動



分野2 みんなで取り組む健康づくり

施策1 地域等との連携

(1) これまでの主な取組

- 健康づくり意見交換会として、地域住民とともに、地域の健康課題を共有し、健康に関する理解を深め、課題解決に向けて意見交換を実施しました。
- 地域診断検討会として、各課が保有するデータから地域の健康課題を共有し、科学的根拠に基づいた保健事業を推進しました。
- 各中学校区での取組を発表する、地域の健康づくり発表会を実施しました。
- 地区コミュニティ会議が実施する健康づくり推進事業に補助金を交付しました。

(2) 成果・課題

- 多様な主体と連携して行う事業の実施数、地域主体の健康づくり事業の参加者数、健康づくり事業・活動に参画する企業や団体数の数が増加しました。

項目	2017年	2022年
多様な主体と連携して行う事業の実施数（累計）	-	1,474回
地域主体の健康づくり事業の参加者数	-	444,877人
健康づくり・活動に参画する企業や団体数	5団体	21団体

- 地域との付き合いをしている人の割合が低下しています。

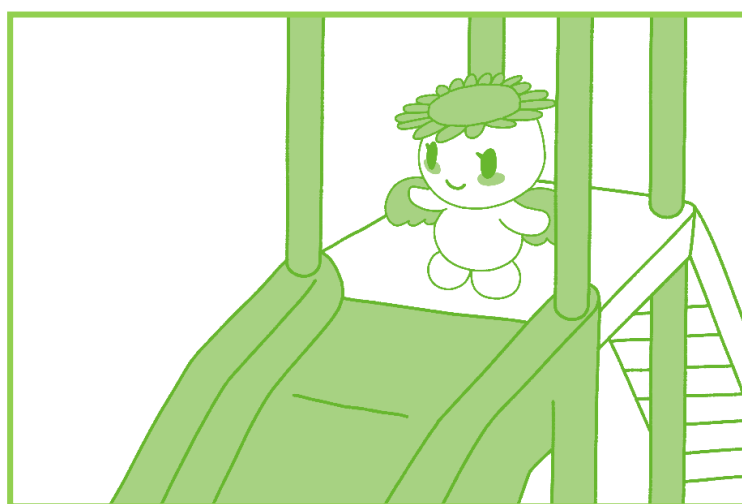
項目	2017年	2022年
地域との付き合いをしている人の割合	20～64歳 36.7%	20～64歳 26.2%
	65歳以上 65.8%	65歳以上 52.2%

(3) 今後の取組の方向性

- 自治区や地区コミュニティ会議等と連携した様々な健康づくり活動を継続していきます。
- 地域の健康づくり事業に参加する住民が固定化・高齢化しているため、幅広い世代に対する周知・啓発を推進していきます。
- 高齢者をはじめ、年齢、性別や趣味など多様化する参加者に合わせた健康づくり活動を展開していきます。

(4) 計画期間中の主な取組

- わくわく事業（健康づくり関連事業）
- 豊田市の健康課題を基にした保健指導・助言
- ヘルスサポートリーダーの養成・活動支援
- 介護予防事業（元気アップ事業、ずっと元気！プロジェクト等）
- 集いの場へのコーディネート事業



施策2 支援機関等との連携

(1) これまでの主な取組

- 様々な問題を抱えた人が、身近な地域で気軽に相談できる窓口を運営し、適切な支援機関につなぐ体制を整備しました（重層的支援体制推進事業）。
- 市内の多様な分野に関する相談窓口を集約した冊子を作成し、配布しました。

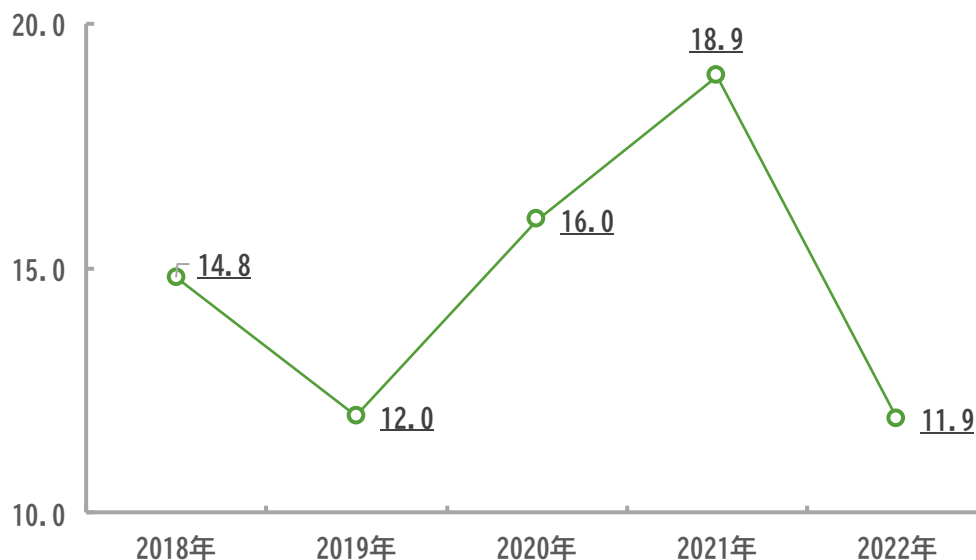
(2) 成果・課題

- 地域の相談機関を知っている人の割合が増加しましたが、ためらいなく相談することができる人の割合が減少しています。
- 悩んでいる人に声をかけ、話を聴こうと思う人の割合も減少しています。

項目	2017年	2022年
地域の相談機関を知っている人	59.7%	66.8%
ためらいなく相談 することができる人	51.8%	42.9%
悩んでいる人に声をかけ、 話を聴こうと思う人の割合	40.5%	35.7%

- 自殺死亡率が14.8（2018年）から11.9（2022年）へ2.9ポイント減少しており、改善しています。

(人口10万対)



- 「ゲートキーパー」という言葉を知っている人の割合が増加しました。

項目	2017年	2022年
「ゲートキーパー」という言葉を知っている人	8.4%	13.4%

(3) 今後の取組の方向性

- 市役所関係各課、各支援機関の連携を強化し、自殺の危険性の高い人の情報を適切な支援機関につなぎ、多機関協働による伴走型の支援を実施していきます。
- 地域資源を活用して居場所を提供する等、地域での見守り活動を推進していきます。

(4) 計画期間中の主な取組

- 重層的支援体制推進事業
- 豊田市ささえあいネット
- 児童生徒のSOSに関する事業
- 豊田市相談窓口一覧作成・配布



施策3 民間事業者等との連携

(1) これまでの主な取組

- 「プラス10」を合言葉にした健康づくりを日常生活で実施できるよう、民間事業者等を対象に、オフィス等に掲示するための啓発シールを配布しました。
- 健康づくり啓発シール配布先のうち、希望する民間事業者等に対し、野菜摂取の講座と運動の実技の教室を実施しました。
- 民間事業者等を対象に相談機関一覧を配布したほか、「こころの健康づくりニュースレター」を配布しました。

(2) 成果・課題

- 健康づくり事業・活動に参加する企業や団体数の数が増加しました。

項目	2017年	2022年
健康づくり事業・活動に参加する企業や団体数	5団体	21団体

(3) 今後の取組の方向性

- 地域等コミュニティーや地元の事業者、大学等をつなぐ仕組みづくりを推進していきます。
- 包括連携協定締結民間事業者等と連携し、講座等の充実を図り、市民の体験機会を増加させていきます。
- 事業者や健康保険組合等との連携により、健康づくりの取組が届きにくい若者や働く世代に対する事業展開を推進していきます。

(4) 計画期間中の主な取組

- 共働によるまちづくりパートナーシップ協定（包括連携協定）を活用した健康づくり事業
- 介護予防事業（元気アップ事業、ずっと元気！プロジェクト等）
- 働き方改革推進事業
- 豊田市の健康課題を基にした保健指導・助言
- 管内保健師研究会等での健康課題の共有
- 健康相談事業

施策4 健康づくりを支える人材の育成

(1) これまでの主な取組

- ヘルスサポートリーダー養成事業として、養成講座のほか、スキルアップ研修を実施しました。また、ヘルスサポートリーダーによる健康講座を実施しました。
- 市役所職員及び支援者向けのゲートキーパー養成研修を実施しました。

(2) 成果・課題

- ヘルスサポートリーダー養成講座修了者の数が増加し、認知度も増加しましたが、活動者数は減少しました。

項目	2017年	2022年
ヘルスサポートリーダー養成講座修了者	555人	704人
ヘルスサポートリーダーの認知度	15.6%	15.9%
ヘルスサポートリーダーの活動者数(延べ)	1,385人/年	338人/年
ヘルスサポートリーダーの活動回数	338回/年	63回/年

- 市職員の自殺対策研修の受講率が増加しました。

項目	2017年	2022年
市職員の自殺対策研修受講率	-	92.3%

(3) 今後の取組の方向性

- 認知度を高めながらヘルスサポートリーダーの養成・育成を行い、地域での健康づくりを担う人材を充実させていきます。
- 自殺のリスクが高い人を様々な場面でキャッチできるように、ゲートキーパー養成研修の対象を医療専門職や支援機関にも拡大するとともに、事例検討といったフォローアップ研修を実施していきます。

(4) 計画期間中の主な取組

- ヘルスサポートリーダーの養成・活動支援
- ゲートキーパー養成研修



第6章 計画策定における資料

1 指標一覧

(1) 基本指標

次期指標案	現状値	目標	備考
健康寿命の延伸	男性 81.0 歳 女性 84.9 歳	↗	
健康づくりに取り組む市民の増加	男性 86.9% 女性 88.0%	↗	
主観的健康感（観）の向上	男性 42.3% 女性 47.0%	↗	
自殺死亡率の低下	14.7	↘	過去 5 年間の平均値 10 万人当たりの自殺者数

(2) 重要指標

重点取組	次期指標	現状値	目標値
1 若者・働く世代等への健康づくりの推進	学校・民間事業者等を対象とした講座等の実施回数	5 回	20 回
	あいち健康プラスの登録者数	1,522 人	5,000 人
2 地域、ボランティア、民間事業者等による健康づくりの推進	民間事業者等を対象としたセミナー、情報交換会等の実施回数	2 回	5 回
	地域を対象とした講座・教室の実施回数	255 回	270 回
3 新たなつながりの創出による健康づくりの推進	健康づくりの場へのコーディネート実施回数	—	140 回
	多様な主体と連携して行う事業の実施数	—	200 回
4 多様な支え合いによる生きることの包括的支援の推進	ゲートキーパー養成研修の実施回数（対象別）	14 回	20 回
	児童・生徒への「命の尊さを学ぶ教育」等の実施	全ての公立小中学校において実施	全ての公立小中学校において実施
5 ICTを活用した健康づくりの推進	オンライン講座の実施回数	1 回	12 回

(3) 参考指標

①個人で取り組む

【健診（検診）・保健指導の推進】

次期指標	現状値	目標
定期健診を受診する人の割合	75.1%	↗
がん検診を受診する人の割合	40～69歳 胃がん 52.5%	↗
	40～69歳 肺がん 62.1%	
	40～69歳 大腸がん 55.5%	
	40～69歳 女性 乳がん 56.9%	
	20～69歳 女性 子宮がん 52.0%	
特定保健指導の実施率（国民健康保険）	5.0%	↗

【身体活動・運動の推進】

次期指標	現状値	目標
日常生活における歩数 (20～64歳、65歳以上)	20～64歳 男性 8,000歩以上 24.8%	↗
	20～64歳 女性 8,000歩以上 8.5%	
	65歳以上 男性 5,000歩以上 27.3%	
	65歳以上 女性 5,000歩以上 18.9%	
運動習慣者（1日30分以上の運動を週2回、 1年以上継続）の割合	20～64歳 男性 26.8%	↗
	20～64歳 女性 18.6%	
	65歳以上 男性 45.3%	
	65歳以上 女性 35.6%	
肥満者（BMI 25.0以上）の割合（20～69歳の 男性、40～69歳の女性）	20～69歳 男性 26.5%	↘
	40～69歳 女性 18.7%	

【こころの健康づくりの推進】

次期指標	現状値	目標
睡眠による休養が十分とれている人の割合	38.2%	↗
ストレスをうまく解消できる人の割合	65.0%	↗
地域の相談機関を知っている人の割合	66.8%	↗
ためらいなく相談することができる人の割合	42.9%	↗
悩んでいる人に声をかけ、話を聴こうと思う 人の割合	35.7%	↗
「ゲートキーパー」という言葉を知っている 人の割合	13.4%	↗

【栄養・食生活の改善、食育の推進】

次期指標	現状値	目標
毎日朝食を食べる人の割合	89.5%	↗
野菜摂取量	174g	↗
やせ者（BMI 18.5未満）の割合（20～29歳の女性）	28.3%	↘
家族や友人など誰かと一緒に食事をする人の割合	小中学生 95.4%	↗
	高校3年生 95.7%	
農作業体験をする子の割合	小中学生 62.5%	↗
食の安全について関心のある人の割合	85.0%	↗
地産地食の内容を知っている人の割合	62.9%	↗
給食に豊田市産の食材が使われていることを知っている子の割合	小中学生 72.8%	↗

【歯・口の健康づくりの推進】

次期指標	現状値	目標
歯の健康が全身の病気に影響することについて知っている人の割合	72.6%	↗
歯科健診を受診する人の割合	62.5%	↗
3歳児でむし歯がない人の割合	91.0%	↗
12歳児でむし歯がない人の割合	83.4%	↗
40歳における進行した歯周炎を有する人の割合	44.2%	↘
口腔機能の維持・向上（60歳代で咀嚼良好者の増加）	41.5%	↗

【飲酒・喫煙・薬物乱用等に関する啓発の推進】

次期指標	現状値	目標
20歳未満の飲酒率（お酒を飲んだことのある人をなくす）	中学1年生 男子 0.7% 女子 3.3%	↘
	高校3年生 男子 0% 女子 0%	
節度ある適度な飲酒量が1日平均純アルコール約20gであることを知っている人の割合	—	↗
20歳未満の喫煙率（たばこを吸ったことのある人をなくす）	中学1年生 男子 0.7% 女子 2.0%	↘
	高校3年生 男子 4.8% 女子 3.8%	
20歳以上の喫煙率	11.3%	↘
薬物乱用の影響について知っている人の割合	—	↗

②みんなで取り組む

【地域等との連携】

次期指標	現状値	目標
地域が主体となって実施する健康づくり事業数	336 事業	↗
地域との付き合いをしている人の割合	20～64 歳 26.2%	↗
	65 歳以上 52.2%	↗
地域に健康づくりの拠点、自主グループがあることを知っている人の割合	25.0%	↗

【支援機関等との連携】

次期指標	現状値	目標
総合相談窓口における相談件数	5,716 件	↗
アウトリーチ支援数	—	↗

【民間事業者等との連携】

次期指標	現状値	目標
健康づくり事業・活動に参画する企業や団体の数	21 団体	↗
健康経営等（健康経営優良法人認定制度、健康宣言等）を実践する民間事業者の数	健康経営優良法人認定 119 事業所	↗
	健康宣言 286 事業所	

【健康づくりを支える人材の育成】

次期指標	現状値	目標
ヘルスサポートリーダー養成講座修了者数	704 人	↗
ゲートキーパー養成研修の参加人数	2,499 人	↗
ゲートキーパー養成研修受講後アンケート調査で「自殺対策の理解が深まった」と回答した人数	89.7%	↗

2 計画の推進体制

(1) 進行管理

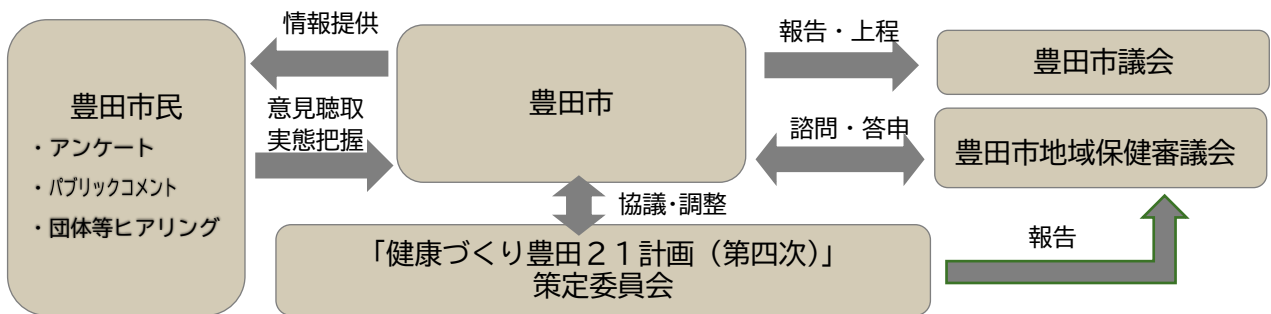
- ・「重要指標」については、毎年度末に実績値の確認を行います。
- ・「基本指標」及び「参考指標」については、3年に1回、実績値の確認を行います。

(2) 評価体制

- ・「豊田市地域保健審議会」にて、計画全体の進捗管理・評価を行います。
- ・計画の推進にあたって会議体を新たに設置し、実際に取り組む中で出た課題点や問題点について共有し、より良い取組となるよう協議していきます。
- ・国や愛知県の実況や、社会情勢の変化等を踏まえたうえで、必要に応じて見直しなどを行います。

3 計画策定の経緯

(1) 計画の策定体制



(2) 市民参加の取組

①パブリックコメント

実施期間	令和5年8月14日から9月13日
閲覧場所	保健部総務課、市政情報コーナー、各支所・出張所、各交流館、市ホームページ
提出方法	直接持ち込み、郵送、FAX、Eメール（Eモニター含む）
提出者数	179人（電子メール4人、Eモニター175人）
意見数	計画素案に対する意見103件 その他Eモニターにて実施したアンケートに対する意見175人

②関係団体・機関ヒアリング

実施期間	令和4年10月から令和5年3月
ヒアリング先	自治区、民間企業、健康保険組合、高校、大学等
ヒアリング数	21か所

(3) 豊田市地域保健審議会

①委員名簿（五十音順 敬称略）

所属機関（団体）	氏 名	備 考
豊田市社会福祉協議会	安藤 広重	R5.5～
豊田市健康づくり協議会	岩月 幸雄	
連合愛知豊田地域協議会	大橋 一之	
豊田加茂医師会	加藤 真二	会長
市民代表	酒井 恵子	R5.7～
中京大学	重松 良祐	
豊田加茂歯科医師会	田代 和久	副会長
市民代表	田中 充子	～R5.5
豊田市開業獣医師会	谷 友一郎	
豊田市社会福祉協議会	中田 繁美	～R5.3
東海学園大学	中出 美代	
日本赤十字豊田看護大学	長谷川 喜代美	
豊田市食品衛生協会	宮澤 清人	
豊田加茂薬剤師会	吉田 哲也	

②開催日・議事内容

日時	内容
令和4年7月26日	計画の策定について（諮問）
令和5年3月29日	計画の基本理念、基本目標、重点方針等について（協議）
令和5年8月2日	計画の素案について（協議）
令和5年11月15日	計画最終案について（協議）
令和5年11月22日	豊田市長への答申

(4) 健康づくり豊田21計画（第四次）策定委員会

①委員名簿（五十音順 敬称略）

所属団体（機関）名	氏名	
豊田加茂歯科医師会	石川 啓詞	
トヨタ自動車株式会社	内田 智浩	
豊田市保健所管内栄養士連絡会	海老子 里美	
豊田市民生委員児童委員協議会	岡田 政美	R5.2～
浜松医科大学	尾島 俊之	
中京大学	重松 良祐	会長
日本赤十字豊田看護大学	清水 美代子	
豊田市社会福祉協議会	鈴木 雅樹	
豊田市健康づくり協議会	田口 妙子	
愛知学泉大学	竹村 ひとみ	
豊田市民生委員児童委員協議会	成瀬 正剛	～R4.11
豊田加茂医師会	平吹 広一	副会長
連合愛知豊田地域協議会	湊 裕	
南山大学	森山 花鈴	
豊田加茂薬剤師会	築瀬 崇	

②開催日・議事内容

日時	内容
令和4年7月11日	計画の策定について
令和4年11月21日	前計画の評価、計画の方向性について
令和5年2月1日	計画期間、基本理念、重点方針、施策メニュー、指標について
令和5年3月21日	重点方針、重点取組、施策メニュー、指標について
令和5年5月31日	重点取組、施策メニュー、指標について
令和5年7月26日	重点取組、施策メニュー、指標、パブリックコメントについて
令和5年10月25日	パブリックコメントの実施結果について
令和6年2月1日	計画の推進体制について



4 用語説明

【あ行】

IT 新戦略

テクノロジーを漠然と受容することなく、社会実装を強く意識して、国民生活・経済活動の質を高めるのに能動的かつ積極的に活用し、産業競争力の強化にとどまらず社会課題の解決にまで役立てていくことを宣言するもの

アウトリーチ

さまざまな形で、必要な人に必要なサービスと情報を届けること。対象者の把握だけに留まらない

悪性新生物

がん、肉腫のこと。臓器内で増殖するとともにリンパ節や他の臓器にも転移して、生命にまで重大な影響を与えるような腫瘍

SDGs（持続可能な開発目標）

2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標

【か行】

健康格差

地域や社会経済状況の違いによる集団における健康状態の差

健康経営

従業員の健康保持・増進の取組が、将来的に収益性等を高める投資であるとの考えの下、健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実践すること

健康経営優良法人認定制度

地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度

健康寿命

健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間

健康づくり

- ①個人の健康を改善することで、個人の QOL を向上し、将来不安を解消する
- ②健康寿命を延ばし、健康に働く方を増やすことで、社会保障の「担い手」を増やす
- ③高齢者が重要な 地域社会の基盤を支え、健康格差の拡大を防止する

ゲートキーパー

自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人のことで、言わば「命の門番」とも位置付けられる人のこと

口腔機能

捕食（食べ物を口に取り込むこと）、咀嚼、食塊の形成と移送、嚥下、構音、味覚、触覚、唾液の分泌などに関わり、人が社会のなかで健康な生活を営むための必要な基本的機能

高齢化率

総人口に占める 65 歳以上人口の割合（65 歳以上人口 ÷ 総人口 × 100）

合計特殊出生率

期間合計特殊出生率。その年次の 15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1 人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当

コミュニティソーシャルワーカー

要援護者の課題を解決するための支援をする人材。住民同士の支え合いの活動支援のほか、地域福祉の計画的な推進を図るため、関係機関・団体などへの働きかけの役割も担う

【さ行】

歯周炎

プラークや歯石の付着、歯列の異常、歯ぎしりなどにより歯周ポケットが形成され、排膿、腫脹などが起こる。やがて歯槽骨が溶かされるため、歯がグラグラ動き出し、最終的には抜け落ちてしまう病気（＝歯槽膿漏）

歯周病

歯と歯ぐき（歯肉）の隙間（歯周ポケット）から侵入した細菌が、歯肉に炎症を引き起こした状態（歯肉炎）、それに加えて歯を支える骨（歯槽骨）を溶かしてグラグラにさせてしまう状態（歯周炎）を合わせた病気

主観的健康感（観）

医学的な健康状態ではなく、自らの健康状態を主観的に評価する指標であり、死亡率や有病率等の客観的指標では表せない全体的な健康状態を捉える健康指標

主要死因別死亡割合

生命表上の死亡率を基礎として、ある年齢の者が、将来いずれかの時期に、特定の死因により死亡する確率

食育

生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けられるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てるもの

Society 5.0

ビッグデータを踏まえた AI やロボットが今まで人間が行っていた作業や調整を代行・支援し、日々の煩雑で不得手な作業などから解放され、誰もが快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることができるようになる社会

【た行】

豊田市 ICT 活用ビジョン

総合計画における本市がめざす将来都市像“つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた”の実現、市民力・地域力・企業力・行政力が発揮される自立した地域社会の実現を目指すため、本市における ICT の活用に関するビジョンを示すもの

【は行】

8020（ハチ・マル・ニイ・マル）運動

「80歳になっても自分の歯を20本以上保とう」という運動

伴走型の支援

つながり続けることを目指すアプローチ。本人と支援者が継続的につながることを目指す。暮らし全体と人生の時間軸をとらえ、本人と支援者が継続的につながり関わるための相談支援（手続的給付）を重視。生きづらさの背景が明らかでない場合や、課題が複合化した場合、ライフステージの変化に応じた柔軟な支援が必要な場合に、特に有効

平均寿命

0歳における平均余命のこと。

ヘルスサポートリーダー

地域の健康づくりを応援するボランティア。スローガンは「地域に広げよう 健康づくりの輪」



健康づくり豊田 21計画

(第四次)

令和6年度～令和11年度



発行：令和6年3月
豊田市 保健部 総務課（令和6年4月から健康政策課に課名変更）
〒471 - 8501 豊田市西町3丁目 60 番地
TEL：0565-34-6723